

平成18年度
神戸大学附属図書館年次報告

平成19年10月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

*附属図書館ホームページにも掲載

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/overview/>

平成18年度神戸大学附属図書館年次報告

1. 達成度評価

- (1) 達成度評価特記事項 p. 1
- (2) 達成度評価表 p. 2

2. 学習・教育支援

- (1) 開館サービス p. 5
- (2) 学生用資料整備 p. 6
- (3) 資料提供サービス p. 8
- (4) 情報リテラシー教育の推進支援 p. 9
- (5) 設備・機器の整備 p. 12

3. 学術研究支援

- (1) 研究用資料の整備 p. 13
- (2) 電子的情報基盤の整備 p. 15
- (3) 蔵書目録データベースの整備 p. 18
- (4) 資料の保存 p. 19
- (5) その他の研究支援サービス p. 20

4. 社会連携・情報発信

- (1) 一般市民への資料提供サービス p. 21
- (2) 震災文庫 p. 22
- (3) 電子図書館システムによる情報発信 p. 23
- (4) 機関リポジトリによる情報発信 p. 25

5. 管理運営等

- (1) 図書館組織と運営 p. 26
- (2) 事務組織と人事管理 p. 27
- (3) 予算及び財務会計業務 p. 30
- (4) 施設整備・システム整備 p. 32
- (5) 図書館界での諸活動 p. 33

< 付録 >

基本統計表	p . 3 5
蔵書・受入等の現況（各館室別）	
サービス業務の現況（各館室別）	
電子的情報サービスの現況	
図書館組織図・事務組織図	p . 3 8
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	p . 3 9
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p . 4 5
附属図書館活動日誌	p . 4 7

1. 達成度評価

(1) 達成度評価特記事項

項目	「財務内容の改善」
特記事項	<p>(管理的経費の節減) 管理的経費の抑制に努め、平成18年度は前年度より約5%の予算を節減し、事業経費を維持・拡大した。</p> <p>主な管理運営費の節減事項は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賃金等 業務合理化・効率化による非常勤職員雇用の抑制 ・印刷費 図書館要覧・利用案内のWeb化等
項目	「自己点検・評価及び情報提供」
特記事項	<p>(年次報告書の拡充と利用者アンケート調査実施) 平成16年度年次報告書に引き続いて平成17年度版を作成しホームページで公開した。平成17年度版は、各活動の記載内容を拡充したほか、達成度評価を掲載、部局予算決算、図書館統計等の評価指標データを充実した。</p> <p>さらに、教員対象の利用者アンケートを実施し(平成19年2月)、185名から回答を得た。集計結果及び分析を行い、報告書を作成、図書館HP上に公開する予定(平成19年3月)。今後、アンケートに寄せられた教員の意見をもとにサービス改善等について検討を進める予定。</p>
項目	「その他業務運営に関する重要事項」
特記事項	<p>(人間科学図書館の集密書架増設) 人間科学図書館は、305,819冊(平成18年4月現在)の蔵書を持つ専門図書館であるが、館内の図書収容力が18万冊ほどしかなく、図書収容の限界に達しており、図書収容力の増強が喫緊の課題であった。平成19年2月に教育研究活性化支援経費によってハンドル式集密書架の予算措置がされ、これにより収容力の大幅な改善が実現した。</p>
項目	「教育研究等の質の向上」
特記事項	<p>(学生用資料整備の進展) 平成18年度当初予算で図書館学生用資料費(63,000千円)が配分され、各館室の学生用資料の整備を継続することができた。 全体計画である「学生用資料整備計画大綱」に基づき、各館室の図書委員会が整備計画を策定し実施している。 また、昨年度整備した学生用図書に対する評価も実施した。</p> <p>(図書館利用時間帯の拡大) 時間外開館の利用動向、利用者アンケートの分析等に基づき、平成18年度当初から平日夜間及び土日開館時間の拡大を図った。 平日夜間開館は、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館及び自然科学系図書館の3館で21:30まで延長した。土曜開館は、7館室で10:00から18:00に延長した。日曜開館は、社会科学系図書館で10:00から18:00に延長した。</p> <p>(研究支援機能の強化) 附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」に則り、電子ジャーナルを含む外国雑誌、データベース、高額教育研究基盤図書の平成19年度～21年度の整備の具体的な方針を附属図書館運営委員会で検討し、財源を確保するとともに、平成19年から教育研究基盤資料の安定的な提供を実現している。 また、附属図書館審議会答申「神戸大学機関リポジトリ構想」に則り、「神戸大学機関リポジトリ推進委員会」を立ち上げ、全学的な取組として事業を開始した。平成18年7月28日に機関リポジトリ開設記念シンポジウム「機関リポジトリとこれからの学術情報流通ー日本の学術コミュニケーションの将来像を探るー」を開催し学内意識の向上を図るとともに、「神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)」の試験公開を経て、10月には正式公開し、本格的なコンテンツ収集を推進している。</p> <p>(図書館資料展示会の開催) 平成18年11月、図書館資料展示会(「東アジアのなかの日本ー古地図と文献に見る交流の風景ー」)を開催した。1週間の開催期間中、学内外から722名の入場者があり、好評であった。また、今回の展示品をデジタル化し、図書館ホームページから電子展示している。 図書館展示会のページ http://www.lib.kobe-u.ac.jp/2006tenjikai/2006tenji.html</p>

(2) 達成度評価表

平成18年度附属図書館の活動総括として、附属図書館年次計画に対する達成度自己評価表を示す。

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ○教育設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備の具体的方策 ・全学共通教育等の実施に必要な図書館機能を整備するとともに、教養・専門図書、映像音響資料等の学生用資料を充実させる。	総合図書館開架閲覧室の書架・閲覧席配置見直しなど、全学共通教育科目履修生の学習環境改善を図る。(H17-19)(附属図書館)	III	平成18年度、総合図書館の学習環境改善として以下を実施した。 ・老朽化した閲覧机、椅子及び放送設備の更新
	・各図書館室で不足または老朽化している家具類(閲覧机、閲覧椅子、書架等)、視聴覚機器、情報端末、無断持ち出し防止装置、自動貸出装置等を計画的に整備する。(H17-21)(附属図書館)	III	平成18年度、各図書館室の設備備品整備として以下を実施した。 ・自動貸出装置の更新(総合・国際文化学図書館、保健科学図書館) ・マイクロリーダープリンターの更新(人文科学図書館) ・閲覧室キャレル・椅子増設更新(総合図書館、人間科学図書館、医学分館) ・保管書棚の増設(社会科学系図書館、保健科学図書館) ・監視カメラ関連装置の更新(自然科学系図書館、医学分館) ・館内放送設備の更新(自然科学系図書館) ・入館管理装置制御システムの更新、電動集密書架のセンサーの更新(医学分館)
	・各館室において、閲覧・学習環境の改善を図る(既設スペースの有効活用による閲覧室の拡張、図書収容力の増加、空調設備の更新等)。(H17-21)(附属図書館)	III	平成18年度、各図書館室の閲覧学習環境の改善として以下を実施した。 ・ハンドル式集密書架増設(人間科学図書館) ・照明器具の増設・更新(自然科学系図書館、人間科学図書館) ・閲覧室に網戸取付(社会科学系図書館) ・ブラインドの設置(自然科学系図書館) ・除湿器の点検・修理(海事科学分館) ・非常口ドアの改修(保健科学図書館) ・利用者用荷物ロッカーの更新(人文科学図書館)
	・全学共通教育に対応する総合図書館、及び専門教育を支援する各専門図書館・分館において、選書方法の見直し等の体制整備を行い、学部学生に必要な教養・専門図書(シラバス掲載図書を含む)を幅広く網羅した系統的な資料収集に努める。(H17-18)(附属図書館)	IV	平成18年度当初予算で図書館学生用資料費(63,000千円)が配分され、各館室の学生用資料の整備を継続することができた。全体計画である「学生用資料整備計画大綱」に基づき、各館室の図書委員会が整備計画を策定し実施している。また、昨年度整備した学生用図書に対する評価も実施した。
(6)学生への支援に関する目標を達成するための措置 ○学習相談、助言及び支援の組織的対応に関する具体的方策 ・附属図書館においては、資料提供や情報検索などのサービスの迅速化と高度化を図るとともに、情報教育を積極的に支援する。	・情報リテラシー教育支援体制を強化し、入学段階・教養教育・学部専門教育といったレベルや、専門分野を考慮した、きめ細かなオリエンテーション、ガイダンスを実施する。(H16-18)(附属図書館)	III	昨年度に引き続き、1年次必修科目「情報基礎」の1/3コマで、附属図書館職員が図書館サービスの概説を延べ25回担当し、約2,800名が受講した。附属図書館は各種のガイダンス及び操作説明会等を年間61回開催し延べ335名が受講した。また、学生用の図書館利用案内を、これまでの冊子版からより携帯しやすいリーフレット版に全面改訂し、全学版と各館室版を作成し配付している。
	・各専門分野におけるガイダンス資料の掲載、図書館メールマガジンの発行など、図書館ホームページ等からの学生に対する情報提供を強化する。(H17-18)(附属図書館)	III	学習支援のため、次の施策を行った。 図書館ホームページの改訂 ・図書館利用のための資料(情報基礎テキスト、各種ガイダンス資料36種、「資料探索Q&A」)の改訂、掲載 ・全館でシラバス掲載図書情報を提供 ・図書館専用端末への電子学習資料利用環境の組み込み また、図書館メールマガジンについては、ICT技術を使ったより効果的な広報の方法を再検討し、次期電子図書館システムの導入に合わせて開始する予定である。 なお、図書館HP(トップページ)へのアクセス件数は、月平均65,000件を超え、前年度比12%増となっている。
	・神戸大学電子図書館システムにおいて、教官作成の教材・講義資料等のデジタル公開を支援し、自学自習のための窓口(ポータル)機能を充実する。(H18)(附属図書館)	III	学習用Web版資料(E-Study資料)の導入を開始し、日経テレコン21、MAGAZINEPLUS、理科年表などの提供を行っている。
	・資料配送(デリバリ)サービスを拡充し、学部学生に対して六甲台キャンパス内各図書館間の配送サービスを行うことを検討する。(H17-18)(附属図書館)	III	デリバリ量は現状のサービス範囲においても増加傾向にあり、貸出数自体が増加傾向にあることも考え合わせると、サービスを拡充した場合、かなりの業務負担増になることが予想された。このため、今後1~2年間、さらに状況の推移を確認することとした。
	全学の図書目録閲覧と入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)	III	附属図書館において、蔵書目録の閲覧と入力事業を引き続き実施し、当初計画の3万8千冊を超える49,927冊の入力を達成した。 内訳は、以下のとおり。 ・研究所図書館の洋書(15,025冊) 国立情報学研究所との共同事業 ・国際文化学図書館、人文科学図書館及び自然科学系図書館(26,592冊) 外部委託作業 ・その他研究室からの返却資料等(8,310冊) 職員作業
・開館時間延長、休日開館の拡大を優先順位に基づいて、実施していく。(H18-21)(附属図書館)	IV	時間外開館の利用動向、利用者アンケートの分析等に基づき、平成18年度当初から平日夜間及び土日開館時間の拡大を図った。 平日夜間開館は、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館及び自然科学系図書館の3館で21:30まで延長した。土曜開館は、7館室で10:00から18:00に延長した。日曜開館は、社会科学系図書館で10:00から18:00に延長した。	
2 研究に関する目標を達成するための措置 (1)研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 ○研究活動支援のための具体的方策 ・研究活動の支援のため、教員のみならず、研究支援職員に対する研修等も含め、自発的能力向上のための機会を増やし、また、図書館・学内共同利用施設など機能の充実を図る。	・専門の情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する知識を持った職員の育成を図る。(H16-21)(附属図書館)	III	学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に職員を派遣した。その研修成果が、1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などに生かされている。

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置 ○研究に必要な設備等の活用と整備に関する具体的方策 ・附属図書館においては、電子資料等を含む学術情報の収集と提供、外国雑誌センター機能、他大学等との協同及び電子図書館システムによる情報発信など、研究支援機能の整備・強化を図る。</p>	<p>・電子ジャーナルなどの全学共同利用する研究基盤資料の整備について、厳しい財政状況のもとで持続可能な方策を検討し、学術情報インフラを計画的・安定的に提供する。(H18-19)(附属図書館)</p> <p>・人文・社会科学分野の学術雑誌に関する全国共同利用の拠点図書館として、外国雑誌センター機能の整備に努める。(H16-21)(附属図書館)</p> <p>・一次資料(図書・雑誌等)の十分な整備に努める。特に、各専門分野の基幹的部分に欠落が生じないよう、継続的かつ系統的な収集体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p> <p>全学の図書目録閲覧と入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・本学の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-18)(附属図書館)</p> <p>・電子図書館システムのコンテンツ充実(震災文庫・新聞記事・所蔵貴重資料・教育研究成果等)と検索機能の高度化を図る。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>「神戸大学機関リポジトリ」構築に向けた試行を開始する。(H18)(附属図書館)</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p>	<p>平成18年度は、電子ジャーナル利用に係る全学経費及び電子ジャーナル・データベースに係る間接経費を措置し、引き続き約8,880誌の電子ジャーナルと42種のデータベースを全学に提供している。また、附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、平成19年度～21年度の整備の具体的な方針を附属図書館運営委員会で検討し、財源を確保するとともに、平成19年から教育研究基盤資料の安定的な提供を実現している。</p> <p>引き続き、社会科学系図書館において国内未収の外国雑誌約1,000誌を収集し、全国に文献複写等の情報サービスを実施している。平成18年度は、学外からの複写依頼に迅速に対応するため、複写作業において外部委託の範囲を拡充し、サービスの向上を実現した。</p> <p>平成18年度は、1.47億円の全学経費を確保し、各分野の研究基盤として重要な電子ジャーナル及びデータベースの利用を維持することができた。附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受け、平成19年度以降の図書・雑誌等の一次資料の整備体制を検討し、財源を確保するとともに、平成19年から実施している。</p> <p>附属図書館において、蔵書目録の閲覧と入力事業を引き続き実施し、当初計画の3万8千冊を超える49,927冊の入力を達成した。 内訳は、以下のとおり。 ・研究所図書館の洋書(15,025冊) 国立情報学研究所との共同事業 ・国際化学図書館、人文科学図書館及び自然科学系図書館(26,592冊) 外部委託作業 ・その他研究室からの返却資料等(8,310冊) 職員作業</p> <p>海外の図書館との相互利用について、米国図書館との図書館相互利用(GIF)システムに参加し、文献複写・現物貸借等のサービスを開始した。韓国、欧州についても準備を進めている。また、平成19年度からバウチャー制度(国際間の相互利用においてFLA(国際図書館連盟)が発行している利用券を用いた仕組み)を導入する予定である。 電子的文献送達システム(DDS:ドキュメント・デリバリー・システム)については、各館に設置している複写機のスキャナ機能を活用する方法への変更を進めている。</p> <p>引き続き、科学研究費研究成果公開促進費の交付を受け、新聞記事文庫の事業を継続している。(約32,000記事を電子化、累計は約17万件)また、電子図書館事業費により、震災資料(図書約11点、累計4,550点)・学内研究成果等のコンテンツ作成を継続実施している。 アクセス数は新聞記事文庫が100,000件、震災文庫が57,000件、所蔵貴重資料が10,000件である。 平成20年2月の電子図書館システムリプレースに向けて、検討を開始した。</p> <p>昨年度の審議会答申「神戸大学機関リポジトリ構想」に基づき、「神戸大学機関リポジトリ推進委員会」を立ち上げ、事業を開始した。 7月に「神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)」の試験公開を経て、10月には正式公開し、本格的なコンテンツ収集を推進し、現在2,500論文を一般公開中である。 また、7月28日に機関リポジトリ開設記念シンポジウム「機関リポジトリとこれからの学術情報流通ー日本の学術コミュニケーションの将来像を探るー」を開催し、学内意識の向上を図った。</p>
<p>3 その他の目標を達成するための措置 (1) 社会との連携に関する目標を達成するための措置 ○地域社会等との連携・協力、社会サービス等に係る具体的方策 ・附属図書館においては、夜間及び休日開館を含め、資料提供等による生涯学習の支援を行い、地域社会への貢献を図る。</p>	<p>・附属図書館資料展示会を開催し、地域市民に公開するなど、引き続き、図書館の公開サービスの充実を図る。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・地域の公共図書館等との間で、相互利用や研修活動など、積極的な連携協力を図る。(H17-18)(附属図書館)</p> <p>・「震災文庫」を地域住民や防災関係者等の幅広い研究ニーズに応えるため、資料の収集とデジタル化を更に進め、最大規模の関連資料コレクションとして、広く社会に公開する。(H16-21)(附属図書館)</p>	<p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>今年度も引き続き11月10-17日に図書館資料展示会(「東アジアのなかの日本ー古地図と文献にみる交流の風景ー」)を開催し、学内外から722名の入場者があり、好評であった。今回の展示品をデジタル化し、図書館ホームページから電子展示している。 また、学外者への館外貸出サービスを継続している。(総合・国際化学図書館及び海事科学分館、放送大学兵庫学習センター等利用者については全館室)</p> <p>平成18年度は、兵庫県大学図書館協議会加盟館の図書館相互協力便覧を作成し、県立図書館を通じて県内公立図書館に提供した。(同協議会の会長館、企画委員会としての活動) 司書資格取得のための図書館情報学実習として他大学の学生1名を受け入れ、夏季休業期の3週間社会科学系図書館及び総合・国際化学図書館の各部署において実習を行った。 また、国立情報学研究所との共催により「目録システム地域講習会(図書コース)」を9月6日から8日までの3日間社会科学系図書館で開催し、近畿・中国地区の11機関から15名が参加した。 さらに、兵庫県が実施している中学生の地域体験活動「トライやるウィーク」に協力し、神戸市立上野中学校(神戸市灘区)の生徒6名、神戸市立筒井台中学校(神戸市中央区)の生徒1名を受け入れ、各5日間図書館業務体験の場を提供した。</p> <p>資料数が4万点を超えた。引き続き資料収集を進めるとともに、震災文庫電子化を継続している。 閲覧者数 約350名、新規受入1,300点、電子コンテンツ作成予定 図書11点(累計4,550点)、HPアクセス数57,000件</p>
<p>○地域の公私立大学等との連携・支援に関する具体的方策 ・近隣の公私立大学等が集まる会議等において、教育研究交流を推進するとともに、大学関係に関する様々な課題について意見交換を行い、問題解決にあたっての連携を図る。</p>	<p>・引き続き、兵庫県大学図書館協議会の中心となる図書館として活動し、県内公私立大学図書館との連携を強化する。(H16-21)(附属図書館)</p>	<p>III</p>	<p>引き続き協議会会長館を務め、総会・講演会・研究会活動等の運営に参画した。 兵庫県大学図書館協議会加盟館の名簿改訂版及び相互協力便覧を作成し、加盟館に配付した。 また、10月13日に武庫川女子大学で開催された協議会主催の講演会「図書館利用・活用の促進に向けてー魅力ある図書館創りを考えるー」に講師を派遣した。</p>

全学期中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 ○国立大学間の自主的な連携と協力体制に関する具体的方策 ・各種ブロック会議への参加や共同研修、人事交流等を通じ、大学運営に関する共通事項に関して情報交換を行い、問題解決に当たっての連携と協力を図る。	・国立大学図書館協会を中心とする電子ジャーナルコンソーシアム、図書館間相互貸借活動、各種共同研修等の連携・協力を維持・発展させる。(H16-21)(附属図書館)	III	引き続き、国立大学図書館協会の監事館として理事会等に参加した。電子ジャーナルコンソーシアムにも引き続き参加した。近畿地区の国公私立大学図書館の連携・協力組織である「大学図書館近畿イニシアティブ」の運営委員館として活動。また、近畿イニシアティブ主催の基礎研修「初任者研修」に講師を派遣した。
3 教職員の人事の適正化に関する目標を達成するための措置 ○事務職員等の採用、養成、人事交流に関する具体的方策 ・特別な知識を必要とする者(例えば情報関係、特許関係、訴訟関係、診療報酬請求関係、労務管理関係等)の採用方法を検討する。	・地区の職員採用試験に参加し、専門性(図書館学、情報技術、主題知識等)を考慮した図書系職員採用を行う。(H16-21)(附属図書館)	III	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員館として活動した。
・専門性の向上を図るための専門研修の実施等について検討する。	・新しい図書館経営等に関する知識のほか、専門的情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する十分な知識を持った職員の育成を図る。(H16-21)(附属図書館)	III	学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に職員を派遣した。その研修成果が、1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などに生かされている。
4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 ○事務組織の機能の見直しに関する具体的方策 ・事務の一元化・集中化と並行して、事務組織の横断的かつ総合的なサービス機能を発揮できる体制について検討する。	・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、附属図書館事務組織体制の見直し、業務フローの明確化・見直し等を実施し、業務の質的向上、職員の活力向上を図る。(H18-19)(附属図書館)	III	附属図書館事務部に附属図書館事務改善プロジェクト及び課題毎の検討WGを設置し、既存業務の見直し・改善や、新規業務の具体化などの検討を進めている。
○事務処理の効率化と合理化に関する具体的方策 ・各種事務処理を見直すとともに、平成17年度以降に学内ネットワークのアップグレードにより情報の共有化を図り、文書管理、会議の開催通知、会議室の予約管理など事務処理の簡素化と迅速化を図る。	・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、さらに各館室の業務標準化、自動化、簡素化を推進する。(H18-19)(附属図書館)	III	平成18年度から、以下の業務標準化や簡素化に向けて検討を進めている。 ・各種手続きの統一など図書館サービス業務の標準化・簡素化に向けて、WGを設置し検討を進めている。 ・図書分類の標準化について検討のための調査を行った。
○業務の外部委託等に関する具体的方策 ・業務処理の点検を行い、職員の業務を分析し、費用対効果を考慮して業務の外部委託を実施し、業務の合理化に努める。	・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、アウトソーシングの導入を検討する。(H18)(附属図書館)	III	平成18年度から、以下のアウトソーシングの導入・拡大を図った。 ・雑誌製本業務に関連した業務 ・目録データ・装備付き納品業務 ・社会科学系図書館の複写業務 ・時間外開館サービス業務(社会科学系図書館)
III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 ○資産の効率的運用を図るための具体的方策 ・継続的な施設の点検と評価を踏まえ、教育研究活動に応じた効果的なスペース配分など、施設の有効活用を推進する全学的方針の確立を図る。	・貴重図書管理・保管体制を整備するとともに、資料劣化への対策も検討する。(H17-18)(附属図書館) ・図書資産の点検作業を適切に行うとともに、重複資料・不用資料の計画的な処分、資料保存基準の見直し等によるスペースの有効利用を図る。(H17-21)(附属図書館)	III	住田文庫等の貴重資料のうち劣化の激しいものについて、段階的に修復作業や桐箱への収容等を実施した。 昨年度に引き続き、図書資産の点検を総合・国際化学図書館、自然科学系図書館、人文科学図書館、医学分館、保健科学図書室、海事科学分館において実施した。 また、人文科学図書館及び人間科学図書館では、平成17年度点検時の不明分の追跡調査を実施し、その結果不明率が大幅に減少した。重複資料・不用資料の計画的な処分について、教員と連携しながら検討を進めている。
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置 ○合理的な評価システムを形成するための具体的方策 ・評価のレベルを次のように分け、これらを重層的に進めて評価を行う。	・毎年、図書館活動全般に及び年次報告書を作成し、活動全般、年次計画達成度等についての自己点検評価を行うとともに、全学的な評価あるいは外部評価にも耐えられるデータを蓄積、整備する。(H18-21)(附属図書館)	III	附属図書館評価委員会を開催し、平成18年度年次計画及び達成度評価について検討する予定である。 昨年に引き続き「年次報告」を作成、根拠資料の蓄積を図る予定である。
部局レベル：部局において「評価委員会」を設置し、個人や部局の基礎指標並びに部局の重点課題について評価を行う。 ・評価結果については、適切な基準を定めて公表する。	・利用者アンケートを定期的に実施する等により、利用者ニーズを適確に把握する体制を整備する。(H16-18)(附属図書館)	III	今年度は、教員を対象として、アンケートにより利用者ニーズの調査を実施した。
V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置 ○施設設備の有効活用に関する具体的方策 ・施設の点検と評価を継続的に実施することにより既存施設の有効活用を図る。	・重複資料、不用資料等の処分を計画的に実施し、累積的な蔵書増加を抑制、書架の有効利用を図る。(H17-21)(附属図書館)	III	昨年度に引き続き、図書資産の点検を総合・国際化学図書館、自然科学系図書館、人文科学図書館、医学分館、保健科学図書室、海事科学分館において実施した。 また、人文科学図書館及び人間科学図書館では、平成17年度点検時の不明分の追跡調査を実施し、その結果不明率が大幅に減少した。重複資料・不用資料の計画的な処分について、教員と連携しながら検討を進めている。
○施設設備等の機能の充実に係る具体的方策 ・教育研究に応じたスペースの確保、充実に計画的に推進する。	・各館室において、閲覧・学習環境の改善を図る(既設スペースの有効活用による閲覧室の拡張・図書収容力の増加、空調設備の更新等)。(H17-21)(附属図書館)	III	平成18年度、各図書館室の閲覧学習環境の改善として以下を実施した。 ・ハンドル式集書架増設(人間科学図書館) ・照明器具の増設・更新(自然科学系図書館、人間科学図書館) ・閲覧室に網戸取付(社会科学系図書館) ・ブラインドの設置(自然科学系図書館) ・除湿器の点検・修理(海事科学分館) ・非常口ドアの改修(保健科学図書室) ・利用者用荷物ロッカーの更新(人文科学図書館)
2 安全管理に関する目標を達成するための措置 ○労働安全衛生法、学校保健法等を踏まえた安全衛生管理、保健管理及び事故防止に関する具体的方策 ・実験室等の安全点検を定期的に実施し、必要な補修、改修、更新等の処置を実施する。	図書館施設・設備の安全点検に努め、利用者・職員の事故等防止のための措置を着実に進める。(H18-21)(附属図書館)	III	安全衛生委員の館内点検を毎週継続実施した。平成18年6月の自然科学系図書館での産業医巡視指摘事項を改善し、安全衛生委員会に報告した。また、各館室の倒壊防止の設置状況について調査を実施し、改修を予定している館室を除いて未設置の書架等に対して倒壊防止措置を講じた。人文科学図書館は指摘によりガス管の更新および額縁の落下防止、棚の移動、非常口の改修等改善した。 社会科学系図書館について、書庫天井塗装剥落部分補修及び書庫エレベータ補修工事を実施し、本館外壁のタイル剥落等の危険箇所の補修を行った。

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

		総合・国際	社会科学系	自然科学系	人文科学	人間科学	研究所	医学分館	保健科学	海事分館
通常期	平日	845-21:30	845-21:30	845-21:30	845-20:00	845-20:00	845-17:00	845-21:00	845-20:00	845-20:00
	土曜	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	休館	9:00-17:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	日曜	休館	10:00-18:00	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館
休業期	平日 17:00まで 土日休館	8月のみ 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館
試験期 特別開館	日祝 10:00-18:00	祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	平日21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00	平日21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00	通常期と同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	平日21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00

18年度の開館時間帯は上表のとおりであり、下記に示すように平日時間外、土曜日及び日曜日の開館時間を拡大した。

平日：総合・国際、社会科学系、自然科学系の3館で、8:45-20:00を8:45-21:30とした。

土曜日：総合・国際、自然科学系、人文科学、人間科学、海事科学の5館で12:30-17:00を、社会科学系で11:00-17:00を、保健科学で11:00-14:30をそれぞれ10:00-18:00とした。

日曜日：社会科学系で11:00-17:00を10:00-18:00とした。

<入館状況>

平日 8:45～17:00 時間帯の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H18/H17	1.00	0.97	1.06	1.03	1.23	0.96	0.94	1.15	1.06	1.04
H17年度	1531.7	687.5	452.1	226.8	322.3	35.1	263.6	299.5	178.3	438.3
H18年度	1532.2	665.3	480.9	234.1	397.2	33.7	247.4	345.5	188.9	456.3

上表は、平日 8:45～17:00 の時間帯の1日あたりの入館者数を17年度と比較したものである。人間科学図書館と保健科学図書室の伸びが著しい。その他の図書館ではほぼ前年並みである。

<夜間開館>

平日夜間時間帯の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H18/H17	1.34	1.26	1.15	0.96	1.28	—	0.93	1.03	1.26	1.20
H17年度	163.2	232.5	136.2	43.3	45.3	—	82.3	60.3	28.2	87.9
H18年度	218.7	292.8	156.2	41.7	57.8	—	76.9	61.9	35.4	105.1

夜間時間帯の開館時間を1.5時間延長した総合・国際、社会科学系、自然科学系の3館で大きな伸びを示しており、土・日祝開館の時間延長も含め17年度比26%増の投下費用に対して一定の効果を得ることができた。その他の図書館では、人間科学図書館と海事科学分館が著しい伸びを示しているほかは、ほぼ前年並みである。

<土曜・日祝開館>

土曜・日祝日の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H18/H17	2.17	1.21	1.71	1.33	1.83	-	0.94	4.73	1.72	1.47
H17年度	56.1	292.8	106.7	34.3	39.2	-	106.4	18.7	49.6	109.4
H18年度	121.7	355.7	182.6	45.6	71.8	-	100.0	88.4	85.1	160.4

土・日・祝日の開館時間を、総合・国際、自然科学系、人文科学、人間科学、海事科学の5館で4.5時間から8時間（1.8倍）に、社会科学系図書館で6時間から8時間（1.3倍）に、保健科学図書室で3.5時間から8時間（2.3倍）に延長した。17年度と比較すると上表のとおり延長倍率とほぼ同等ないしそれ以上の割合で入館者が増えており期待どおりの効果を得ることができたといえる。

<24時間開館>

- 前年どおり、医学分館と自然科学系図書館で実施した。利用者数は右表のとおりで、医学分館で増加した。
- 18年度も両者の利用者数には大きな開きがあるが、これは医学分館では主に医学科3年次以上の学生が学習に使っているのに対し、自然科学系図書館では院生以上が雑誌論文の複写のため入館するのが主であるという、利用スタイルの違いによるものである。

	自然系	医学
H18/H17	0.59	1.10
H17年度	560	17,562
H18年度	329	19,327

評価と課題

18年度から平日夜間及び土日開館の開館時間数を拡大したことにより、17年度と比較すると平日夜間で20%、土日開館では47%の入館者増となった。年間入館者総数全体を見ても、17年度と比較すると9%（1,154千人→1,258千人）増加しており、図書館の施設利用の潜在需要を掘り起こすことができた。

今後は、総合・国際、社会科学系、自然科学系図書館以外の平日夜間開館の21:30までの延長及び、社会科学系図書館以外の日曜開館が課題となるが、利用度や費用対効果を充分検討することが必要である。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計の通りである。

<資料費予算と重点整備>

- 図書館予算（図書館セグメント）として各館室に配分する経費と、サービス対象部局から拠出された経費（部局セグメントの図書資料費）を合わせて、各館室の学生用資料整備を行う予算構造となっている。
- 18年度は図書館予算として6,300万円（内重点配分1,000万円、e-study資料費300万円）規模とし、あらたに学習用として広くネットワークで利用できる辞書、事典等を導入するための予算として「E-study資料費」を設けて、部局拠出分と合わせて引き続き学生用図書資料の充実を図った。これは部局拠出分が減少するなかで、学生用図書費の増額を最重点の事項として要求し、部局拠出分と合わせ計画的で着実な資料整備を目指すことが認められたことによる。

- ・ 18 年度より、17 年度まで社会科学系図書館学生用資料整備費でまかっていた震災文庫資料費（50 万円）を独立した予算項目とした。
- ・ 19 年度においても、この資料整備計画は維持され図書館予算としては 6,300 万円が配分される見込みである。さらに、18 年 3 月の附属図書館審議会答申にもとづき、高額教育研究基盤図書費（2,000 万円）が措置されるため、総額は 8,300 万円となる予定である。
- ・ 18 年度の重点整備は 17 年度に引き続いて総合図書館に 400 万円、医学分館、保健科学図書室、海事科学分館に各 200 万円を配分して整備した。
- ・ また、16 年度より実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化学図書館（4,053 冊）社会科学系図書館（1,017 冊）自然科学系図書館（1,216 冊）人間科学図書館（804 冊）保健科学図書室（676 冊）において実施し省力化・合理化を進め、その人的資源を目録遡及入力作業等に投入した。

< 各館室の整備状況 >

H18 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	5,734	1,562	3,133	2,888	1,257	1,716	186	1,672	1,045	3,184	22,377
雑誌種数	94	37	49	174	23	172	0	177	119	285	1,130

- ・ 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス図書の購入をはじめとして各館室の資料整備を行った。

< 選書体制と収集方針 >

- ・ 16 年度に「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- ・ 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。

< 選書評価 >

- ・ 18 年度から、前年度に整備した学生用図書の利用状況の分析及び収集資料の評価を開始した。

評価と課題

学生用資料費の図書館予算が大幅に増額され、概ね要求は満たされたものとなっている。19 年度において高額教育研究基盤図書費が措置されることになり、さらに充実がはかれることとなったが、今後は学生用資料費全体としての質と量両面での適正な予算規模を検討する必要がある。

これまで配分予算が不十分であった学生用図書について早急なてこ入れを図るため、重点整備を実施してきた。16 年度においては総合図書館と自然科学系図書館に配分、17 年度は総合図書館と人文系（国際文化学、人文科学、人間科学）の各図書館に配分した。そして、18 年度は総合図書館と医学分館、保健科学図書室、海事科学分館に重点配分した。19 年度においては、社会科学系図書館に 400 万円、総合図書館に 100 万円（大規模改修が予定されているため、総合図書館分を従来の 400 万円から抑えた額とした）とし、重点配分額全体を従来の 1,000 万円から 500 万円とした。これで全館室の重点配分は一巡することとなり、重点配分方式そのものを再考する時期に来ている。

17 年度に整備した学生用図書の選定評価を実施した結果、選定が蔵書構成上並びに利用上ほぼ適切に行われたことが実証されている。（附属図書館運営委員会〔平成 18 年度第 2 回、第 3 回及び第 4 回開催〕に各館室の選定結果及び評価として資料配付の上報告）

(3) 資料提供サービス

入館者数、貸出冊数等は別添基本統計のとおりである。相互利用サービスについては、3(5)に後述する。

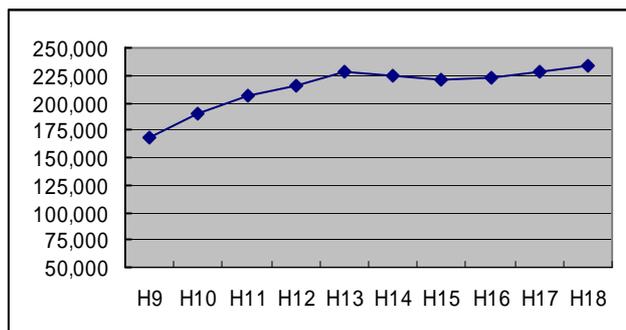
《貸出サービス》

- 貸出冊数等の条件面での変更など、特に運用に係る変更は無かった。

< 貸出冊数（学生・院生）経年推移 >

9年度から18年度までの図書館全体の貸出冊数の経年推移を右に掲げた。

16年度以降増加傾向にあり、計画的な資料整備の効果が認められる。



< 館室別学生・院生貸出数 >

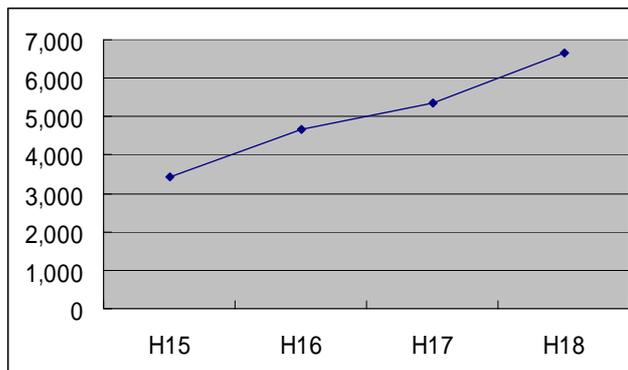
	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H18/H17	1.01	1.07	0.99	1.12	0.94	0.51	1.09	1.07	0.94	1.02
H17年度	64,125	65,741	30,069	12,581	17,182	2,319	7,867	12,953	15,371	228,208
H18年度	64,943	70,323	29,733	14,102	16,156	1,172	8,542	13,875	14,437	233,283

- 社会科学系図書館、人文科学図書館、医学分館、保健科学図書室で貸出冊数が伸びている。社会科学系図書館と保健科学図書室では、入館者数の増加と照応している。
- その他の館はほぼ前年並みで、全体として増加傾向にある。

《デリバリ（図書配送）サービス》

< デリバリサービス貸出冊数推移 >

15年度から18年度までの経年推移を右に掲げた。



< 館別デリバリ貸出冊数 >

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H18/H17	1.44	1.29	2.06	1.25	1.51	-	0.48	0.80	0.49	1.25
H17年度	1,371	1,191	300	383	940	-	269	188	694	5,336
H18年度	1,979	1,531	619	477	1,422	-	129	151	337	6,645

- 院生以上を対象に12年度からサービスを行っているが、サービスが浸透するにつれて貸出冊数の増加が続いている。18年度は延べ申込者数 3,302 人、貸出冊数 6,645 冊で、前年比で前者が13%増、後者が25%増と大幅な増加が見られた。館別では17年度に続き18年度も総合・国際文化学図書館が最も多い利用があった。

評価と課題

学生の貸出冊数は順調な伸びを見せている。これは学生用資料の計画的整備、館内施設のリニューアル及び開館時間数の拡大など、過去3年にわたって実施してきた施策によるものといえる。学生用資料費の増額が期待できない状況において、18年度に実施した選書評価にもとづく効率的な選書・収集体制を確立していくことが課題である。

デリバリサービスの利用数はサービス開始以来、毎年20%前後の増加が続いている。学部学生への拡大（六甲台キャンパス間）については、現状でも年々増加していることから、かなりの経費増が予想されるので、試行期間をおくなどの慎重な対応が必要である。なお、図書に貼付されたOCR（資料ID）ラベルに重複するものが存在することが判明し、その課題解決が優先される。

（4）情報リテラシー教育の推進支援

< 情報リテラシー教育支援 >

- ・ 16年度より設けられた全学共通必修科目「情報基礎」では、昨年度の1/2コマから18年度は1/3コマ（約30分）が「図書館のサービス」にあてられ、学部新入生全員を対象に5月下旬～7月上旬を中心に計25回（補講・再履修を含む）、情報リテラシー係職員が講義（実習を含む）を行い、約2,800人が受講した。
- ・ 内容については、図書館システムの更新に伴い、図書館ホームページ上のサービス紹介を行う従来のスタイルを変更し、OPAC（実習を含む）・パーソナルサービス等を強調して説明を行った。加えて4月から導入したE-study資料も簡単ではあるが紹介した。18年度より冊子体のテキストは配布せず、Web版の教材として図書館HPの「情報基礎」の画面を使い説明を行った。講義室の環境としてはPC端末がすべてMacになり2人に1台モニターが利用できる。

< オリエンテーション、ガイダンス >

- ・ 情報リテラシー係を中心に以下のガイダンスを開催した

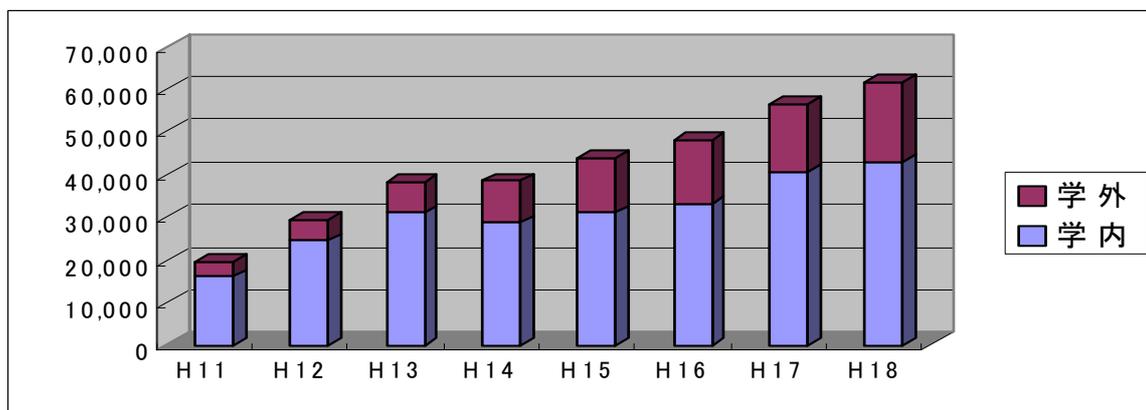
名称	内容	時期	時間	会場	回数	参加者
留学生オリエンテーション	施設紹介・利用全般	4、10月	10分	六甲ホール	2	約500名
情報の探し方ガイダンス（入門編）	OPACの検索方法、資料入手方法	4月中旬	60分	総合図書館	15	115名
情報の探し方ガイダンス（基本編）	雑誌論文検索方法、「国内編」「海外編」、E-Study等	5月中旬	60分	自然系図書館	15	72名
情報の探し方ガイダンス（個々のデータベース編）	電子ジャーナル、Web of Science、新聞記事の探し方等	6月中旬	60分	自然系図書館	9	38名
情報の探し方ガイダンス（社会科学編）	雑誌論文検索方法、法学情報、経済経営学情報、E-Study等	6月下旬	60分	社会系図書館	10	44名
情報の探し方ガイダンス（秋期 基本編）	雑誌論文検索（国内・海外編）、新聞記事の探し方等	11月下旬	60分	総合図書館	7	35名
情報の探し方ガイダンス（秋期 基本編）	電子ジャーナル、データベース	12月上旬	90分	人間科学図書館	6	31名
SciFinder 講習会	SciFinderの説明と実習	6月5日	90分	自然系図書館	1	14名
理・化学科3年生	雑誌論文検索（4月）、SciFinder（6月）	4月、6月	180分	基盤センター 自然系図書館	2	35名

日経テレコン 21 講習会	日経テレコン 21 の使用方法	7 月 12 日	60 分	プレゼンテーション ホール	2	67 名
オーダーメイドガイダンス	OPAC の検索方法、雑誌論文検索、新聞記事の探し方等	4 月(2 回)、 6 月(1 回)	60 分	総合図書館 自然系図書館 社会系図書館	3	4 名

- ・ SciFinder と日経テレコン 21 のみベンダー派遣講師、他は情報リテラシー係職員が講師をつとめた。
- ・ 春期の基本編・個々のデータベース編・社会科学編の参加者は 154 名。今年度より会場スペース（PC 端末エリア）は Windows と Mac が混在、ガイダンスの内容によっては端末確保が困難になったが、昨年同様スクリーンやマイクを使用して利用者に「見える形」で開催した。開催案内の広報も昨年と同じ（WWW，掲示、館内放送、関係部局の職員 box にビラ配布）に加えて、館内の利用者にビラ配布、また自動貸出レシートにガイダンスの案内を印字したりと新たな試みも行ったが、昨年度の参加者 199 名を得ることはできなかった。
- ・ 秋期には春期の基本編に新たに E-Study として加わった Magazineplus を国内文献検索用としてガイダンスに組み込み、総合図書館と人間科学図書館で同じようにスクリーン・プロジェクトを使用し実施した、参加者は 66 名。今までガイダンスを開催したことのない人間科学図書館での実施は、日を追うごとに参加希望者が増え（アンケートにも教員・友人から知ったという声が多かった）ガイダンス実施の手応えを感じた。ただし PC 端末の配置と台数に制限があり今後の実施に問題が残った。
- ・ ホームページには、ガイダンスの実施が目立つように参加申し込みのボタンを配置し、加えて、各種ガイダンス資料を内容別に整理して示すなど、アクセシビリティの向上につとめた。

< 図書館ホームページの維持・更新 >

- ・ 月平均アクセスは約 61,749 件となっている（月別アクセス数は別添統計の通り）。
- ・ ホームページについては、業務システムリプレイスに合わせ、電子ジャーナルもタイトル管理ツール（AtoZ）の導入しリニューアルした。利用者からホームページについては要望や意見は出ていないが、Web からの各種申込（パーソナルサービス）や情報リテラシー教育支援のための「情報基礎」Web 教材などをわかりやすい場所に配置した。全体のデザインを維持しながらトップページメニューの見直しや利用案内（今年度より各館室別リーフレット作成）・ガイダンス情報・データベース紹介情報等の改訂を行った。
- ・ 今年新たに E-Study 資料として加わったのは、日経テレコム 21、Magazineplus、理科年表プレミアム等。この E-Study 資料と学生によく使われる図書館サービスを集めた「便利帳ア・ラ・カルト for Student」をトップページメニュー画面に配置し、よりアクセシビリティの向上を目指した。
- ・ ガイダンスの実施に際して作成した資料をホームページに順次掲載している。その他、各種情報のメンテナンス、新着事項の掲載等を引き続き行った。



図書館トップページ月平均アクセス数

◆評価と課題

必修科目「情報基礎」の情報リテラシー教育支援は3年目に入り、滞りなく実施できた。「情報の探し方」等のガイダンスへの積極的な参加者は限定されるので、必修科目の中で全員に説明できることは教育効果が非情に大きい。ただ、昨年にもまして少なくなった約30分という時間は図書館サービス全体を説明するには十分でなく、一方で新生が実感を持って習得できる内容は限られている。引き続き、教員との連携のもと大学生活・教育全体の中でのあるべき姿を考えていくことが必要ではないか。

「情報の探し方」等のガイダンスについては、今後とも事業を継続していく意義があるなか、参加者は全学生数から見ればまだまだ少なく、情報リテラシー教育の期間・運営方法・広報等さらに改善する必要がある。

昨年度の利用者アンケートではホームページに目立った不満は出ていないが、リンク集の整備、各館室情報の精粗、英語版ページの充実など、なお残る見直し課題がある。また、ホームページ上のみの情報では、周知に限界があり、情報探し方ガイドを掲載した図書館グッズ（クリアファイル）の配付やメールマガジンの創刊等新たな広報手段も検討せねばならない。

(5) 設備・機器の整備

施設面の整備については、5 (4) で記述することとし、本章では学習環境改善のための設備・機器に絞った整備について記述する。

<設備更新による学習環境の整備>

- ・ 9 月から年度末にかけて部局長裁量経費等により各館室の整備を行ったが、特に学習支援に直接係わる事項として次のものがある。

自然科学系図書館	2・3 階開架図書室の照明器具取替
人文科学図書館	マイクロリーダープリンタの更新
人間科学図書館	閲覧机・座席の増設、集密書架の増設
医学分館	入館管理装置の更新、キアルデスク・閲覧イスの増設

<自動貸出装置等>

- ・ 総合・国際文化学図書館及び保健学科図書室に自動貸出装置を更新した (年度末)。
- ・ 保健科学図書室にブックディクションを更新した (年度末)。

※利用者のセルフサービスを支援する機器類の導入状況は次のとおりである。

自動貸出装置	研究所を除く各館室
BDS (無断持出防止装置)	研究所を除く各館室
24 時間入退館システム	自然科学系図書館、医学分館
セルフコピー (コイン式等)	研究所を除く各館室

<情報機器の更新>

- ・ 社会科学系図書館のデータベース検索用パソコン 4 台を更新した。
- ・ 利用者用 PC 等の設置台数は次の通りである。

	総・国	社会	自然	人文	人間	医学	保健	海事	研究所	合計
PC 台数	46	45	40	14	17	17	12	20	3	214
制限なし(*1)	(25)	(15)	(20)	(10)	(10)	(8)	(7)	(5)	(0)	(100)
制限なし(*2)	(12)	(11)	(12)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(0)	(50)
一部サイト(*3)	(8)	(14)	(8)	(1)	(4)	(5)	(2)	(3)	(3)	(48)
スタンドアロン等	(1)	(5)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(8)
利用者貸出用	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(8)	(0)	(8)
情報コンセント	3	21	12	4	5	30	2	20	0	97

* (*1) 100 台は電子図書館システムのリース品

* (*2) 50 台は学術情報基盤センター統合情報基盤計算機システムのリース品

* (*3) は、OPAC に加えて限定された検索サイト (国会図書館等) がアクセス可能なもの

◆評価と課題

昨年度末に学術情報基盤センター統合情報基盤計算機システムの教育用端末 50 台が図書館に導入されたことに伴い、以前から設置されていた利用者用端末についても相乗的に多く利用されるようになり、図書館での学習環境の向上が進んだ。

来年度は総合・国際文化学図書館に設置されている Windows98 を OS とするパソコンについて、Windows98 のセキュリティ・サポートが終了したことで、その対策のため WindowsXP 以降の OS に更新することが求められる。

また来年度に利用者用クライアント・システムを含む電子図書館システムが更新される。新しいクライアント端末機器ならびに、OS やオフィスソフト、また Firefox や Thunderbird のような近年多く利用されるようになってきているソフトウェア等、最新の各種ソフトウェアを導入することで、機能や使いやすさを向上させ、より利用者の要求に応えられるようなクライアント・システムを構築することが求められる。

3. 学術研究支援

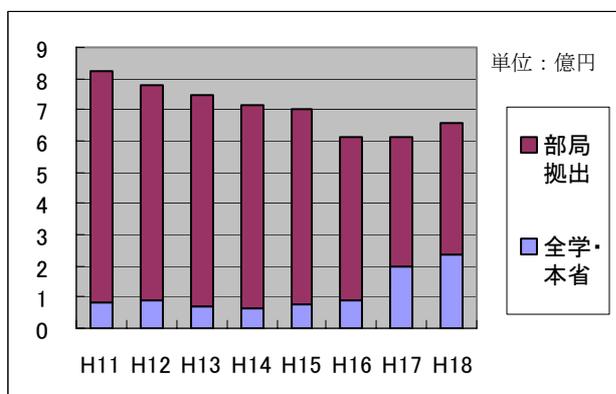
(1) 研究用資料の整備

各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は別添統計の通りである。

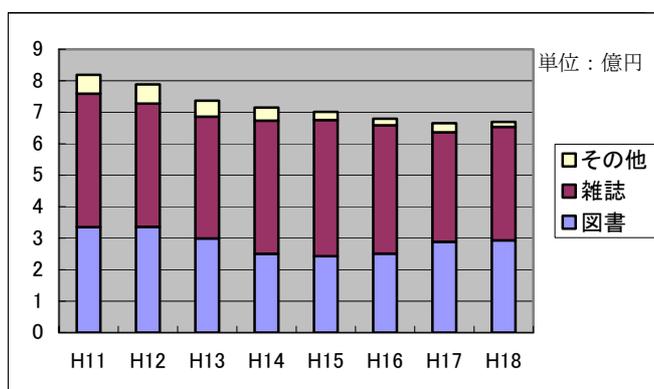
<資料受入状況>

- * 15 年度まで館室によって学習用・研究用を分けがたい場合が多いため、総計の経年推移を示す。
- 注) 下記統計数値は、神戸商船大学、経済経営研究所など当時図書館組織外だった館の数値も合算した値

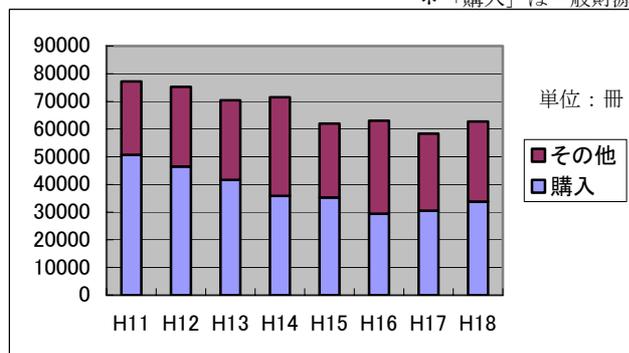
<資料費経年推移> * 一般財源に限る



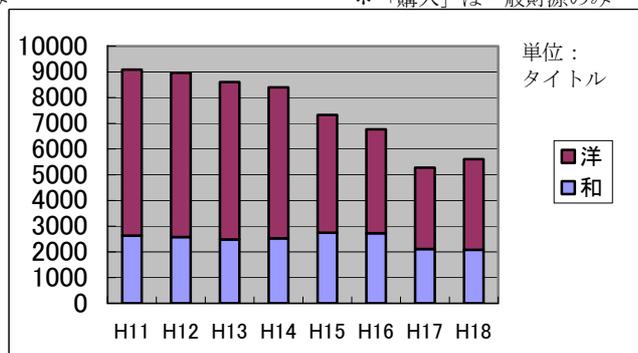
<資料費の用途別内訳推移>



<受入図書冊数経年推移> * 「購入」は一般財源のみ



<購入雑誌数経年推移> * 「購入」は一般財源のみ



- ・ 部局予算の全体的な厳しさによる部局拠出の図書資料費（一般財源）の減少を全学負担の学生用資料費の増加が補っている。また用途別では、図書購入費は増加し5年前の平成13年度に並んだ。購入冊数は昨年と比べ1割ほど増加している。雑誌購入費は増額になったが一昨年水準までは戻っていない。和雑誌の購入数は横ばい、洋雑誌の購入数は図書館配置の外国雑誌に3割補助を行ったことで増加に転じたがこれも一昨年水準までは戻っていない。
- ・ 数年来の傾向として、一般財源（校費）が減少した分、科学研究費・委任経理金等外部資金による購入の比重が高まっている。
- ・ 一般財源による洋書の購入冊数と洋雑誌の購読雑誌数はここ数年激減しており、18年度は17年度より増加したとはいえ洋書は11年度の購入冊数の4割程度、洋雑誌は11年度の購読雑誌数の半数近くまで落ち込んでいる。

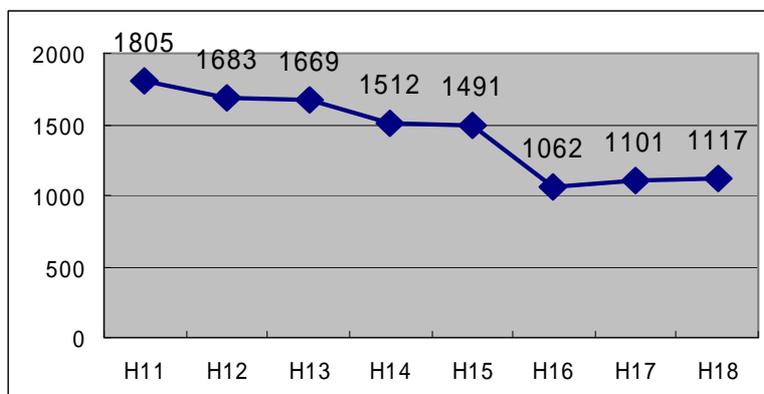
<大型図書>

- ・ 文部科学省予算「大型コレクション」「特別図書」がなくなった現在、教員・講座単位では購入困難な高額図書を購入する途は事実上閉ざされた状態にある。特に人文・社会科学系分野では引き続き大きな問題である。
- ・ 19年度からは、高額教育研究基盤図書費が2,000万円の枠で措置されることになり、1件10万円以上500万円以下の高額図書について整備が図られることになった。

<外国雑誌センター館>

- ・ 昭和61年度より、「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内に所蔵の少ない外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している（配架は社会科学系図書館）。分野別の外国雑誌センター館は全国で計9大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の2大学に設置されている。
- ・ 外国雑誌センター館本来の趣旨に鑑み、所蔵希少雑誌として選定後、所蔵大学が4館以上となった雑誌を中止し、その分新規雑誌を追加した結果、18年度予約点数は1,117となった。
- ・ ILL複写サービスについては、18年度も一部作業を外注化するなどして、年間を通じ安定したサービスができる体制を整えることとした。これにより、他大学等からの複写依頼を常時受け付け、遅くとも受付翌日には発送する本来の外国雑誌センター館としてのサービス体制に戻すことができた。なお、一昨年度大幅に低下した受付件数は、15年度水準にほぼ回復している。

<予約点数の推移>



◆評価と課題

予算の減少はとりわけ図書購入に大きな打撃となっている。また外部資金へのシフトは、減少分を補填する意義はあるが、科学研究費等の購入図書は当該教員（または教員集団）の利用が原則となることから、社会科学系図書館を典型とする、関連分野の専門図書館室に資料を集中し、共同利用するというこれまでの考え方に大きな影響を与えつつある。

大型図書が購入できる体制の整備は、中長期的な研究基盤整備として、いつまでも放置はできない重要な課題である。全学経費による大型図書の計画的収集を目指して、19年度からの教育研究基盤資料の維持・整備計画の一環として「高額教育研究基盤図書」を計画している。

外国雑誌センター館については、本来の目的を鑑みた購入タイトルの整理、ILL 文献複写サービスの体制作りなど、今後向けての見直しを行った。

(2) 電子的情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

有料で導入している主な電子ジャーナルは次の通りである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
Elsevier 社 ScienceDirect	全分野	H14	1,800	1995～	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション 講読規模維持が条件
Springer 社 SpringerLINK	多分野	H14	1,200	1997 前後～	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Wiley 社 InterScience	多分野	H14	518	1996 前後～	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Blackwell 社 Synergy	多分野	H14	790	1998 前後～	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件 H18 より HSS のみから STM を加えて Full Collection に変更
JSTOR	自然科学 及び社会科学	H14	771	創刊号～ (最近3～5年 は対象外)	Arts & Sciences I (H14～ 174 誌) Arts & Sciences II (H17～ 189 誌) Arts & Sciences III (19.3～221 誌) Arts & Sciences IV (H18.3～ 154 誌) Health & General Sciences (H15～ 33 誌) Science 等が創刊号より利用可能
Nature 社	自然科学	H15	27	1987～	Nature 本誌以外は初号から
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	過去5年	
IEEE CSLSP-e	情報通信	H15	22	1988～	会議録約 1500 冊も利用可能
ACM Portal	情報通信	H15	31	ほぼ創刊号～	会議録等も利用可能
APS	物理系	H16	8	2001～	米国物理学会。 *H16 よりライセンス料要 (以前から利用可能)
Cell Press	生命科学	H16	8	1996～	Elsevier 傘下に (ScienceDirect で利用)
LWW via Ovid	医学臨床	H16	100	1996～	
ACS	化学系	H16	24	1996～	米国化学会

Oxford University Press	多分野	H17	166	1999 前後～	発行のほぼ全タイトル 購読規模維持が条件
Cambridge University Press	多分野	H18	197	1999 前後～	発行のほぼ全タイトル 購読規模維持が条件

- ・ その他、冊子体購読により利用できるものや SourceOECD (15 誌)、HighWire Press (冊子購読誌など 150 誌以上)、J-STAGE (約 200 誌)、NACSIS-ELS (機関別定額制対象の約 420 誌) 等も加え、18 年度当初の電子ジャーナル導入数は、8,880 タイトルとなった。
- ・ 電子ジャーナルの利用状況は別添統計の通りである。IEEE、ACM など一部に利用実績の伸びないものもあるが、総体としては非常によく利用されており、今や必須の教育研究基盤資料となっている。ちなみに、Science Direct の 1 論文当たりの利用単価は 425 円であった。
- ・ H18 年度購入のバックファイルは次のとおりである。

JSTOR : arts and sciences III

Nature biotechnology 1983-1998

Nature genetics 1992-1998

Nature medicine 1995-1998

Nature structural & molecular biology 1994-1998

- ・ 外国雑誌については、19 年分から下記のように大幅な方針変更を行った。

附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について I. 教育研究基盤資料の維持・整備方策 (18 年 3 月 9 日)」により、部局拠出経費を加味した全学経費を投入する方針が示され、世界レベルの研究水準を目指す本学の学術情報基盤として重要な電子ジャーナルを含む外国雑誌の維持・整備を図る方向性が定まった。

従って、この答申を受け、2007 年から大手出版社の電子ジャーナルの導入については、従来の冊子体を維持する方法から、電子ジャーナルの利用に当たって冊子体を維持する必要がない電子オンリー中心の包括利用の契約方法に大幅に変更した。

具体的には次のようになった。

(1) 電子オンリー中心の包括利用契約への移行

大手 5 社 (Elsevier 社、Wiley 社、Springer 社、Blackwell 社、Oxford 社) 発行のものについては、各社発行電子ジャーナル全タイトルが利用できる電子オンリー中心の包括利用契約に移行し、その対象となる冊子体の購読はオプションとなり、電子ジャーナルを維持するため購読を維持する必要はなくなった。

なお、冊子体の購読を希望する場合は、購読額の 10%～25%程度の特別価格で購読できるが、これに関しては、今年度実施した 30%補填は行わない。

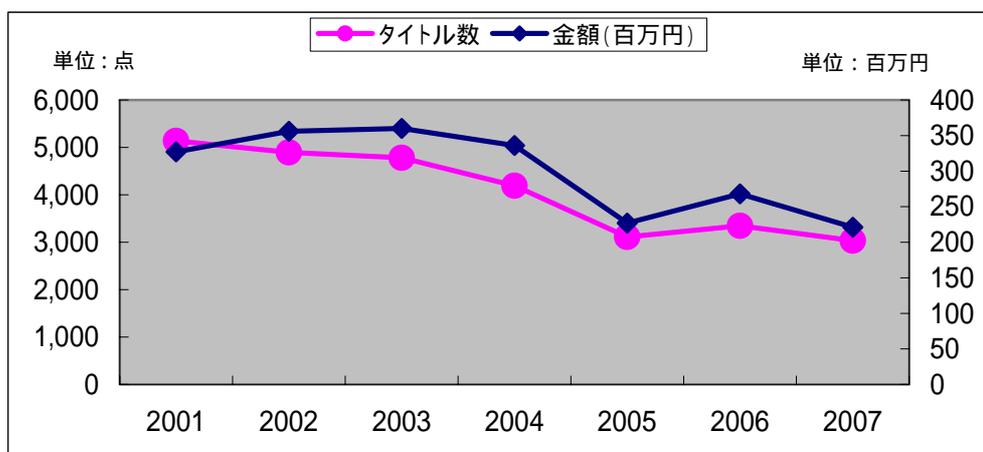
(2) 上記以外の外国雑誌購読に係る経費補填

冊子体を各図書館室に配置し、全学共同利用が可能なものについては、全学経費から、当該雑誌購読所要額の 30%を補填する。

- ・ この結果、2007 年外国雑誌 (冊子体) の購読は、契約点数・契約金額とも大幅な減少となり、冊子体から電子ジャーナルへの変更の道筋がついたと考えられる。

2006 年契約点数 3,348 点 → 2007 年 3,034 点 (9.4%減)
2006 年契約金額 約 268 百万円 → 2007 年 約 221 百万円 (17.5%減)

< 外国雑誌（冊子体）購読推移 >



< データベースの整備 >

主な導入データベースは次の通りである。

	分野等	導入	範囲	形態	備考
Web of Science SCIE	自然科学 (引用索引)	H15	1996 ~	Web	H15.11 から導入 同時アクセス 5
JCR Web	全分野	H17		Web	H17.4 から新規導入
MathSciNet	数学	H13	1940 ~	Web	
SciFinder Scholar	化学	H16	1840 ~	Web	H16.11 から新規導入
Readers Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983 ~	Web	H18.4 より ERL での提供 から Web 版に変更
Business Periodicals Index	経営学	H3	1982 ~	Web	同上
EconLit	経済学	H3	1969 ~	Web	同上
Index to Legal Periodicals	法学	H3	1981 ~	Web	同上
CiNii (旧名 NACSIS-IR)	多分野	H15	多種	Web	機関別定額制
聞蔵 II ビジュアル(朝日新聞)	新聞記事	H12	1945 ~	Web	同時アクセス 2
SwetScan	全分野 (雑誌記事)	H15	1995 ~	Web	学内サーバからの Web 検索提供
医学中央雑誌	医学	H5	1983 ~	Web	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		Web	H17.6 から新規導入 同時アクセス 3
文字鏡 Web	漢字データ ベース	H17		Web	H18.1 から新規導入
官報	官報記事	H18		Web	H18.4 から新規導入
日経テレコン 2 1	新聞記事等	H18	1975 ~	Web	H18.7 から新規導入
MAGAZINEPLUS	国内雑誌記 事	H18		Web	H18.8 から新規導入 同時アクセス 2
理科年表プレミアム	自然科学	H18		Web	H18.9 から新規導入

- ・ 15 年度途中に導入した引用索引データベース Web of Science SCIE (自然科学系) は、引き続き間接経費で契約を維持した。

- ・ 16年11月より、化学分野の基本データベースである SciFinder Scholar を導入した。導入にあたっては関係部局の研究者にアンケート調査を行ったうえ、受益者負担を定めることとした。経費の問題から、「同時アクセス数1」の契約となっている。
- ・ 17年度より、JCR Web と JapanKnowledge、文字鏡 Web を新たに導入した。
- ・ 18年度より、日経テレコン 2 1 と MAGAZINEPLUS, 理科年表プレミアム, 官報を新たに導入した。
- ・ 各データベースの利用は別添統計の通りである。データベースにより、利用度合は大きく異なっている。

評価と課題

電子ジャーナルは研究者（大学院生を含む）にとって、不可欠な教育研究基盤資料となっている。18年度は全学経費から、当該雑誌購読所要額の30%を補填すること等により大手出版社電子ジャーナルのコンソーシアム契約を維持できることとなった。19年度からは、附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について 教育研究基盤資料の維持・整備方策(平成18年3月9日)」により、部局拠出経費を加味した全学経費を投入する方針が示され、世界レベルの研究水準を目指す本学の学術情報基盤として重要な電子ジャーナルを含む外国雑誌の維持・整備を図る方向性が定まっている。

(3) 蔵書目録データベースの整備

< 目録遡及入力事業 >

- ・ 4年度から「図書館インテリジェント化推進事業」として学内予算措置で事業を開始したもので、第1次(H4~8) 第2次(H9~13)を経て、第3次5ヵ年計画(H14-18)が今年度を以って終了した。4年度からの入力総計は108万冊を超え、18年度末現在、製本雑誌を除く全蔵書に対する入力率は約73%である。
- ・ 17年度に引き続き、国立情報学研究所共同遡及入力事業(全国的見地から有意義な入力事業を公募し、国立情報学研究所経費で実施するもの)に参加し、経済経営研究所図書館の洋図書の入力を行った。
- ・ 自然科学系図書館では、数学共同研究室配置図書の入力を行った。
- ・ 入力目標を38,000冊(国立情報学研究所共同分を含む)とし、外部委託及び館員による作業を実施し、目標冊数を上回る入力が達成できた。

18年度計画目標 38,000冊 実績 49,927冊(参考:17年度は41,150冊を入力)

総合図書館(外部委託) 6,000冊(和書) 実績 12,983冊

人文科学図書館(外部委託) 6,000冊(和洋) 実績 5,888冊

自然科学系図書館(外部委託) 4,000冊(和洋) 実績 7,721冊

経済経営研究所(国立情報学研究所経費)

15,000冊(和洋) 実績 15,025冊

各館館員入力 7,000冊(和洋) 実績 8,310冊

- ・ 館室配置図書に限ると、未入力冊数は約33万冊である。総合・国際、社会科学系、研究所の3館がそれぞれ約7~10万冊の未入力図書を書庫内に残している。

各館室配置図書の OPAC 収録状況は次の通りである。

総合・国際文化学	開架室図書及び書庫内洋書はほぼ完了。書庫内和書は継続入力中
社会科学系	洋書はほぼ入力完了。和書は 1945 年以降ほぼ完了、それ以前は継続入力中
自然科学系	ほぼ全図書を入力完了
人文科学	ほぼ全図書を入力完了、中国書等は継続入力中
人間科学	ほぼ全図書を入力完了
医学分館	ほぼ全図書を入力完了
保健科学	ほぼ全図書を入力完了
海事科学分館	ほぼ全図書を入力完了
経済経営研究所	洋書はほぼ入力完了 和書は 1989 年以降の図書は完了、それ以前は継続入力中

評価と課題

第 3 次 5 年計画が終了し、自然科学系図書館、人間科学図書館、医学分館、保健科学図書室、海事科学分館の 5 館室については館室配置図書の入力をほぼ完了した。今後は、社会科学系図書館、経済経営研究所図書館に残る書庫内未入力図書の入力を重点的に進めるとともに、特に人文科学図書館、総合・国際文化学図書館に多い中国書等特殊言語図書や研究室配置図書の入力計画を検討する必要がある。

(4) 資料の保存

< 貴重資料の保存 >

- ・ 展示会で使用した古地図 6 点の修復作業を事前に行った。
- ・ マイクロフィルムの劣化対策として、社会科学系図書館及び経済経営研究所図書館が所蔵するマイクロフィルム 300 リール（各館 150 リールずつ）の複製を行った。
- ・ 洋書稀覯本 480 冊の修復補修を実施した。

< 一般資料の保存 >

- ・ 昨年度、附属図書館運営委員会において「神戸大学附属図書館資料保存基準（案）」が提示されたが、一律の基準の適用に対して異論が出され、再検討することとなった。今年度、あらためて「今後の資料収容力確保の具体策について（案）」が運営委員会に提案され、審議の結果、了承された。

評価と課題

従来からの課題であったマイクロ資料の保全について、一定の進歩が見られた。

資料収容力確保の具体策が決定されたが、図書については、各館室で保存基準を策定する必要があり、雑誌については、全館で調整の上、重複雑誌の保存責任館を決定する必要がある。重複雑誌の調整では、タイトルごとの作業になり、相当な作業量を伴うこととなるため、粘り強い努力が必要とされる。

(5) その他の研究支援サービス

< 相互利用 >

前年度との比較は次のとおりである。

< 17年度との比較 >

区分		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
複写	受付	H18/H17	0.94	1.03	1.11	1.11	0.83	0.98	0.84	0.99	0.77	0.98
		H17年度	297	5,885	2,499	912	824	423	3,282	392	507	15,021
		H18年度	279	6,044	2,781	1,012	680	413	2,760	389	388	14,751
	依頼	H18/H17	0.89	1.50	1.20	1.34	0.65	0	0.71	1.10	0.93	0.95
		H17年度	708	889	1,748	892	2,488	25	2,871	1,615	177	11,413
		H18年度	628	1,336	2,097	1,197	1,611	0	2,042	1,772	165	10,848
貸借	受付	H18/H17	0.96	1.21	1.53	1.13	1.48	0.96	0.27	0.83	1.33	1.19
		H17年度	310	1,637	151	451	153	27	26	18	73	2,846
		H18年度	298	1,983	231	511	227	26	7	15	97	3,395
	依頼	H18/H17	0.96	1.23	0.84	1.50	1.14	0.75	0.89	0.75	2.17	1.21
		H17年度	313	522	153	609	375	8	9	32	6	2,027
		H18年度	300	645	128	912	426	6	8	24	13	2,462

- ・ 文献複写に関しては全体として、受付・依頼とも漸減傾向が続いている。個別には、自然科学系図書館では下げ止まりが見られるが、医学分館は減少傾向が続いている。
- ・ 現物貸借に関しては、受付・依頼ともに漸増傾向にある。全国的な目録情報の遡及入力の実進が背景にあると考えられる。

評価と課題

複写の減少傾向はより一層明確になってきているが、それでもまだ受付、依頼と共に1万件を超えており、他大学との協力関係なしに利用者の要求に充分応えられない状況に変わりはない。

海外とのILLについては、17年度末、北米の大学図書館とのILLがスタートし、19年度からはIFLAバウチャー制度加入により、広く欧米の大学図書館等とのILLが可能となった。学内研究者等への周知と共に、利用状況の実態を分析する必要がある。

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス

<一般市民の図書館利用>

- ・ 17年度附属図書館利用細則を改定し、総合・国際文化学図書館と海事分館において一般市民への貸出を開始した。
- ・ 17年度と比べ、両館とも利用動向に大きな変化はなかった。18年度も海事分館では、総合を上回る利用があった。これは、図書館の地理的な条件によるものと考えられる。

	総合・国際	海事分館
H17年度	269	409
H18年度	311	385

<展示会「東アジアのなかの日本」開催>

- ・ 「神戸大学東アジア Week2006」の共催行事として「東アジアのなかの日本：古地図と文献に見る交流の風景」を開催した。
日程 : 11月10日(金)～17日(日) 8日間
会場 : 社会科学系図書館プレゼンテーションホール
展示内容 : ・「古地図に見る東アジア」「近世の日本と東アジアの交流」「東アジアの近代化と日本」「東アジアと神戸」の4コーナーに資料107点(文書、地図、図書等)
 - ・ コーナーに関する「新聞記事文庫」中の記事
 - ・ その他の資料及び各種説明のパネル展示
 - ・ 電子展示(デジタル版新聞記事文庫、住田文庫、王敬祥関係文書)
- ・ 8日間で722名(うち学内者344名)の来場者があった。近隣の住民や学校生徒を含む一般市民の来場が多く、来場者アンケートへの反応等も概ね好意的であった。
- ・ 特定のコレクションではなく、各館室から関係資料を幅広く集めて展示品を構成した点が特徴のひとつであり、好評な点でもあった。
- ・ 終了後、図書館ホームページ上で電子展示も開催している。

<公共図書館との協力>

- ・ 前年に引き続き、兵庫県大学図書館協議会で加盟館の一般市民への公開状況をまとめ、協議会ホームページでの情報公開及び兵庫県図書館協会への情報提供を行った。

評価と課題

一般市民への資料貸出は、特に積極的な宣伝はしていないがコンスタントに利用があり地域社会に徐々に浸透してきた。このような取り組みは、地域に開かれた大学の活動の一つとして評価できると考えている。

18年度の展示会は本学の国際交流事業「東アジア Week2006」の共催事業として実施した。マスコミにも取り上げられ、前年並みの来場者があり概ね好評を得ることができた。今後は、3年間の展示会実績をもとに実施方法・期間等の見直しを行い、より効果的な展示会活動を展開したい。

(2) 震災文庫

< 資料収集と一般公開 >

- ・ 引き続き、様々なチャンネルから情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動により関連資料の網羅的収集に努めた。今年度は 1,295 点（17 年度は 1,502 点）収集し、資料所蔵総数は 4 万件を超えた。

	全点数 (タイトル数)	H18 新着		全点数 (タイトル数)	H18 新着
図書資料	6,054(5,367)	309(254)	写真資料	86(84)	2(2)
雑誌資料	11,824(2,981)	232(31)	地図資料	132(126)	0(0)
新聞・広報誌資料	12,558(2,247)	415(117)	映像資料	243(200)	11(11)
パンフレット資料	5,184(5,138)	170(169)	音声資料	83(68)	10(3)
一枚もの資料	5,708(5,708)	139(139)	コンピュータ資料	78(78)	7(7)
			総合計	41,950(21,997)	1,295(733)

注) 雑誌等の各号を 1 冊ずつ数えた数が「点」(件)、同一タイトルを 1 と数えたのが「タイトル」。
写真資料はコレクション単位(概ね撮影者単位)を 1 としているため、点数が少ない
(約 2 万枚のコレクションなどもある。)

< 震災デジタルアーカイブ >

- ・ 資料全体のタイトル等だけでなく、掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なメタデータを継続的に作成している。本年度は、約 5 千件を入力し、その結果、メタデータデータベースのレコード総数は 23 万件を越えた。
- ・ 震災関係図書資料について、著作権許諾の得られた 11 冊(約 1,700 ページ)をデジタル化し公開した。
- ・ チラシ等一枚もの資料について、著作権許諾の得られたものをデジタル化し公開した。
- ・ 各機関から、防災資料作成等のための一次資料使用問い合わせが、写真を中心に 30 件程あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。

評価と課題

震災文庫が特色ある図書館事業として評価を得ていることが、震災文庫トップページのアクセス件数からも分かる。その一方、震災後 10 年以上経過した現在、文庫設立当初の目的である震災の記録としての資料は入手できない現状であり、資料収集の方向性を再検討する時期にきている。

15 年 10 月の新館への移転以降、震災文庫室は利用者の来室時のみ職員が開室するという体制で運用されている。これは、震災文庫室が図書館の通常の利用者スペースから離れた場所に移転した結果、文庫の開室にあたり常駐人員が必要となったためである。この点をどうするかは今後の課題である。

震災デジタルアーカイブの一次資料使用問い合わせに対して、著作権者への許諾仲介を行っているが、著作権者により条件の違いがあることや、連絡方法も多岐にわたることから煩雑な作業となっている。また団体・組織の再編、解散によって年々連絡が取り辛くなっているのが現状である。

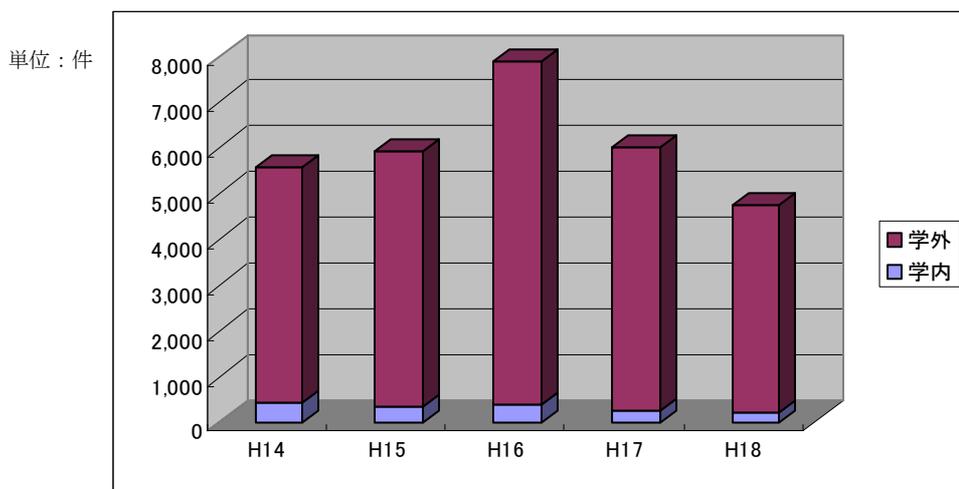
(3) 電子図書館システムによる情報発信

コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べた。

<「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築>

- ・ 同システムは 10 年度補正予算で予算措置され、11 年から稼働している。全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として継続的に予算措置されているものである。
- ・ 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内教育・研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料は、制限をつけず広く Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館経費と、科学研究費研究成果公開促進費（H11～15 震災デジタルアーカイブに措置、H16～ 新聞記事文庫に措置）を充ててきた。
- ・ 15 年 2 月に更新した電子図書館システムは、20 年 2 月の契約更新に向けた準備を行っている。スケールメリットによるシステムの改善等を図るため、23 年 1 月更新予定の図書館業務システムと合わせて契約を行うこととし、3 年弱の契約期間で実施する予定である。

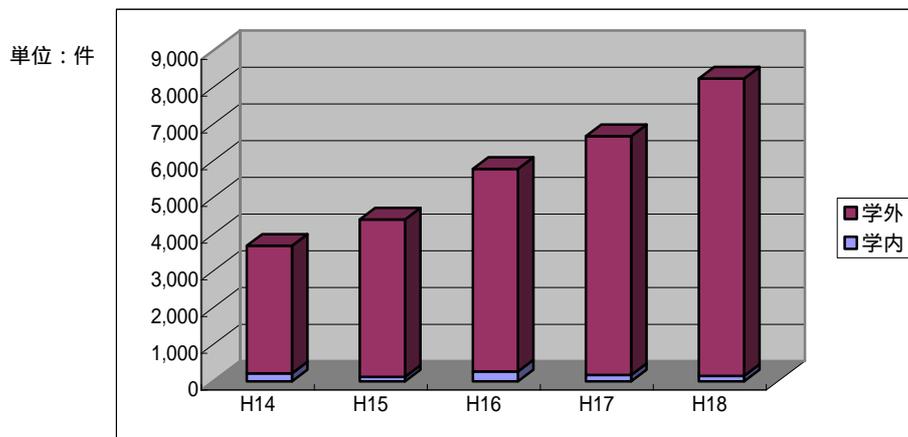
<震災文庫トップページ月平均アクセス数推移>



<経済関係資料デジタル化>

- ・ 新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化については、昨年につき科学研究費研究成果公開促進費（「戦前期新聞記事文庫データベース」）を獲得した（補助費 1,420 万円）。「保険」「商業」分野など約 33,000 コマを全文テキスト化した（累積約 240,000 コマ）。

< 新聞記事文庫トップページ月平均アクセス数推移 >



< 住田文庫、神戸開港史料のデジタル化 >

- ・ 今年度の展示会「東アジアのなかの日本」で好評だった神戸関係の地図・史料など 15 点をデジタル化し公開した。
- ・ 神戸開港文書、約 760 点について、解題情報のテキスト化と文書の画像データ化に着手した。

< 学内教育・研究成果資料デジタル化 >

- ・ 機関リポジトリについて、国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」委託費（700 万円）を獲得し、「神戸大学学術成果リポジトリ Kernel」を、10 月より正式に Web 公開した。公開に先駆け、7 月には「機関リポジトリとこれからの学術情報流通」と題した開設記念シンポジウムを開催し、近隣大学の教職員を中心に 80 人以上の参加を得た。19 年 3 月末現在、2,500 件の学術成果を、一般公開している。
- ・ 日本語音声の基礎資料「日本人はどんな風にしゃべっているの？」(国際文化学部 定延利之教授らの研究成果)を公開した。
- ・ 引き続き学内研究成果メタデータ(書誌情報)として、紀要類記事情報(978 件入力、累積 30,479 件) 科学研究費成果報告情報(122 件入力、累積 1,716 件) 博士学位論文情報(354 件入力、累積 4,224 件)の入力を進めた。

評価と課題

新聞記事はその規模の大きさと希少性(戦前の記事切抜きはほとんど残っていない)から高い評価を得ており、主に外部からの利用が多数を占める。今年度も、科学研究費研究成果公開促進費の獲得により計画どおりに進めることができた。

機関リポジトリについては、引き続き学内研究者の学術成果の収集と公開を行うとともに、事業を今後安定して遂行していくための業務ワークフローと労力配分を見極める必要がある。また、国立情報学研究所による再来年以降の委託事業継続の保証がないことから、その場合の予算措置は今後の同事業の課題である。

(4) 機関リポジトリによる情報発信

< 神戸大学学術成果リポジトリの稼働 >

- ・ 附属図書館審議会答申に基づき、附属図書館が主体的に機関リポジトリ運用を担当することとなり、機関リポジトリ推進委員会を組織して神戸大学における機関リポジトリ構築の基本方針を決定した。
- ・ 神戸大学の機関リポジトリを、「神戸大学学術成果リポジトリ（愛称：Kernel）」と命名し、7月に試験公開を開始、システムの検証を行った後、10月には正式公開とした。

< コンテンツ収集活動 >

- ・ 試験公開を開始した時点では、学内で既に電子化されていた紀要論文へのリンク情報が主であったが、8月から本格的なコンテンツ収集活動を開始した。主として、Web of Science等の文献情報データベースを使用して神戸大学研究者の論文を調査し、電子メールにより提供依頼する方法を採った。
- ・ 学内刊行紀要で未だ電子化されていないタイトルの電子化を進めるため、複数の紀要編集委員会と協議を行い、6タイトルについて、電子化の合意を得ることができた。また、博士学位論文、科研費報告書の電子化にも着手した。

< 広報活動 >

- ・ 7月の試験公開に合わせ、開設記念シンポジウム「機関リポジトリとこれからの学術情報流通」を開催し、学内研究者への浸透を図った。82名の参加者があった。また、シンポジウムの記録を公開した。

< CSI 事業 >

- ・ 国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業（CSI事業）」に応募し、700万円の委託事業費を得た。
- ・ CSI事業は、領域1「機関リポジトリの構築と運用」、領域2「先端的な研究・開発」の2分野があり、本学はその両方の領域で採択された。
- ・ 領域1では、神戸大学大学情報データベース（KUID）との連携システムを開発し、神戸大学としての研究業績発信機能の強化を目指した。
- ・ 領域2では、筑波大学、千葉大学と連携して、学協会の「著作権ポリシー共有機能」の実現を目指し、学協会の著作権ポリシーについて調査を行った。

評価と課題

図書館審議会答申を通じて、大学としての意思決定が行われていたこともあって、立ち上げは比較的スムーズに進んだ。コンテンツ数も試験公開開始当時の200件から18年度末には2500件へと、順調に増加している。今後、紀要の電子化が進むにつれて、急速に増加するものと思われる。

今後の課題としては、学術雑誌掲載論文を対象に更に収集を強化する他、博士学位論文等の収集にも力を入れる必要がある。また、紀要論文も大学の存在を主張するという点でも貴重な学術情報であり、更に電子化を推進する必要がある。そのためには、一層の広報活動が重要であり、特に、KUIDとの連携のメリットを生かした、組織的な広報活動、収集活動に努める必要がある。

5 . 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

< 管理運営全般 >

17 年 4 月より部局長経験者の須藤健一館長（国際文化学部教授）がその任に当たっている。

3 名の副館長の分担も以下のとおり 17 年度から継続した。

三上和夫副館長（発達科学部教授） 評価担当 震災記念事業委員会

足立正樹副館長（経済学研究科教授） 社会科学系図書館担当 情報公開・個人情報保護委員会
広報委員会

青木健次副館長（農学部教授） 自然科学系図書館担当 国際交流委員会

< 館内諸会議 >

附属図書館運営委員会

- ・ 18 年度は 4 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 18 年度は、開催していない。

附属図書館評価委員会

- ・ 18 年度は 3 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館研究開発室会議

- ・ 18 年度は 1 回開催した。開催日時、室員名簿、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

全学図書系係長会議

- ・ 18 年度は 3 回開催した。附属図書館事務部課長、補佐、係長及び経済経営研究所図書係長がメンバーで、全学図書館業務に係る実務的な会議である。
- ・ 開催日時、議題等一覧は、巻末添付資料に掲載。

< 図書館審議会答申の具体化 >

附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について」
教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受けて、19 年度から 21 年度の整備の具体的な方針を附属図書館運営委員会で検討し、財源を確保するとともに、19 年から教育研究基盤資料の安定的な提供を実現している。
また、「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について」
神戸大学機関リポジトリ構想」を受け、神戸大学機関リポジトリ推進委員会」を立ち上げ、7 月に「神戸大学学術成果リポジトリ (Kernel) の試験公開を経て、10 月に正式公開し、本格的なコンテンツ収集を推進し、論文情報を一般公開している。

◆評価と課題

附属図書館運営委員会において、「教育研究基盤資料の維持・整備方策」については、高額図書の定義・選定方法等の検討、電子ジャーナル・データベースの確認・選定等について、そして「神戸大学機関リポジトリの構築」に関連しては、教員へのコンテンツ登録依頼などの答申に盛り込まれた方策の具体化について、審議し、方針を策定した。

(2) 事務組織と人事管理

<図書館事務組織>

- ・ 18年5月現在、附属図書館事務部は2課19係、定員51名、非常勤職員39名、経済経営研究所図書係、定員3名、非常勤職員1名の94名となっている。
- ・ 18年5月現在、職員の配置状況は、以下のとおりである。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課長 2係	5	4	9
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 7係	20	20	40
	自然科学系図書館	サービス課補佐 3係	8	4	12
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	3	2	5
	経済経営研究所図書館	1係	3	1	4
	楠地区	医学分館	管理課補佐 2係	6	3
名谷地区	保健科学図書室	1係	1	2	3
深江地区	海事科学分館	管理課補佐 2係	5	2	7
			54	40	94

- ・ 現在、社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、図書受入係・雑誌情報係・目録情報係は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・ 情報サービス課の情報リテラシー係（総合・国際文化学図書館配置）、電子図書館係（社会科学系図書館配置）、情報システム係（自然科学系図書館配置）は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・ 情報管理係は、自然科学系・医学分館・海事科学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当している。

<職員の採用と育成>

- ・ 18年度末に、図書系職員1名の定年退職があったが、業務改善プロジェクト報告書から導かれる人員削減計画（21年までに3名の削減）の実施により、補充はしなかった。
- ・ 16・17年度に実施した「図書系職員初任者等研修」は、新任職員が少なかったため18年度は実施しなかった。

- 16年度から引き続いて、事務系職員の「身上調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施し、職員のキャリア形成に係わる目標や希望をより正確に聴取し、研修計画等に反映した。
- 国立情報学研究所の主催する各種研修、大学図書館職員長期研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。今年度参加の主な研修は次のとおりである。

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	大学図書館職員短期研修	国立情報学研究所、京都大学	10/17～20	係員 2
	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	12/13～15	係員 1
	大学図書館近畿イニシアティブ初任者研修	大学図書館近畿イニシアティブ	11/21～22	係員 3
中堅(係長クラス)向けの研修	大学図書館職員長期研修	筑波大学、文部科学省	7/4～15	係員 1
	国立情報学研究所教育研修事業国際シンポジウム	国立情報研究所	11/15	補佐 1 係長 1 係員 1
個別業務の専門的知識のための研修	目録システム講習会[図書コース]	国立情報学研究所、神戸大学	9/6～8、	係員 2 非常勤 3
	NAIST 電子図書館学講座	奈良先端科学技術大学院大学	11/30～12/1	係員 1
	学術情報リテラシー教育担当者研修	国立情報学研究所	10/11～13	係長 1
	医学図書館協会 近畿地区講習会	医学図書館協会近畿地区	1/10	係員 1
	日本古典籍講習会修	国文学研究資料館	1/17～19	係員 1
	西洋社会科学古典資料講習会	一橋大学社会科学古典資料センター	11/7～10	係員 1
	職員自己啓発研修(接遇マナー及び放送大学科目等履修生として「カウンセリング概要及びドイツ語入門」等を自学)	神戸大学、人事院近畿事務局	-----	補佐 1 係員 4
1日以内の講演会・研修会等	各種講演会等 「図書館・活用の促進に向けて - 魅力ある図書館創りを考える」 「大学図書館の広報について」「目録/目録規則の動向と将来像」ほか	兵庫県大学図書館協議会、近畿地区国公立大学図書館協議会、京都大学、ほか(主に近畿地区で開催されるもの)	各半日～1日	管理職を含め延べ 14

- 図書館専門業務以外の大学職員としての一般的な学内研修(OA研修、管理職研修等)も、可能な限り派遣したが、国際化への意識啓発及び国際業務対応能力養成として以下の研修にも派遣した。

区分	研修名	主催	日程	参加者
能力養成研修	平成18年度神戸大学事務職員国際業務研修(国際業務専門員養成)	神戸大学	7/20～11/2間の10日	係員 1
	平成18年度神戸大学事務職員国際業務研修(国際業務担当職員養成)	神戸大学	7/20～2/1間の13日	係員 2
	平成18年度神戸大学事務職員国際業務海外研修(研修先:国立シンガポール大学)	神戸大学	3/5～3/13	係員 1

評価と課題

学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修及び国際業務対応能力を養成する研修に派遣して自発的能力向上のための機会を増やした。

新任・転任の職員を対象とした「初任者等研修」を今年度は未実施であるが、今後は計画的に実施する必要がある。

<業務の改善と効率化・合理化>

業務の標準化・合理化

- ・ 本学の附属図書館は、4年度に旧神戸大学の6図書館室が一元化され、その後も医療短期大学部図書室、神戸商船大学附属図書館、経済経営研究所図書室が編入された組織であり、業務の面においても各図書館室には独自の処理や手順が残っている。このため、業務の効率化・合理化を進めるには、まず業務の標準化が重要となっている。18年度は以下のことを実施した。

各種手続きの統一等図書館サービス業務の標準化・簡素化に向けてWGを設置し検討を進めた。

図書分類の標準化について検討のための調査を行った。

- ・ 合理化の面では、利用者サービス部門の自動化推進のため、以下の整備を行った。

自動貸出装置 総合図書館に増設、保健科学図書室分を更新

セルフサービス複写機 医学分館に増設

アウトソーシング

これまで清掃・警備等の一般的業務のほか、雑誌製本業務、一部館室の時間外開館業務、目録遡及入力、電子化コンテンツの作成を外部委託してきた。18年度は、以下に記す業務について、実施を開始又は業務範囲を拡大した。

- ・ 2007年外国雑誌の業者選定に際して、前年度から引き続いて納品時の仕様を「チェックイン」方式とした。これにより、雑誌受付処理の自動化（納品分一括処理）実施の条件を整備するとともに、煩瑣な欠号請求業務をアウトソーシングした。
- ・ 整理部門業務の軽減方策として、業者による装備作業済・目録データ添付図書の購入を拡大し前年度に引き続いて実施した。
- ・ 複写作業の外部委託を外国雑誌センターである社会科学系図書館で業務範囲を拡大して実施した。
- ・ 雑誌製本業務について、準備作業、データ作成及び装備等業務範囲を拡大し外部委託を実施した。

業務改善の検討

- ・ 7月に「神戸大学業務改善プロジェクト報告書」が学長に答申された。医学部及び附属病院を除く事務職員の業務時間の3割を削減することを目標としていたが、「非効率と呼べる作業」は少なく、8%程に留まった。しかしながら、この業務改善による業務量削減により18年度からの5年5%の総人件費政策への対応が可能となった。図書館において業務改善により削減可能な時間数は最終的に8,373時間（定員内5,613時間、非常勤2,760時間）となった。これにより、21年度末までに定員3名、非常勤1名の削減計画を立てることとされている。
- ・ 答申を受け、報告書の内容を確実に定着させるために、業務改善推進プロジェクトが発足した。業務改善担当理事の下に、事務局各部の連絡課長及び企画課職員等で構成されている。図書館からは情報管理課長がメンバーとして出席している。
- ・ 図書館の業務改善の内容は下記のとおりである。
 1. 選定リストの電子化・フォーマットの統一（削減効果70時間 H.19.4までに実施）
 2. 電子化作業マニュアルの整備による校正回数低減（削減効果500時間 H.19.4までに実施）
 3. 雑誌製本業務のアウトソーシング対象範囲の拡大（削減効果1,200時間 H.19.4までに実施）
 4. 複写経費一元化（部局単位もしくは大学全体）（削減効果350時間 H.20.4までに実施）
 5. 文献複写経費一元化（部局単位もしくは大学全体）（削減効果260時間 H.20.4までに実施）
 6. 取引業者の絞込み及び、図書館業務システムとのデータ連携（削減効果640時間 H.20.4までに実施）
 7. 書店発注システムの活用（削減効果1,500時間 H.20.4までに実施）
 8. 情報システム運用管理・保守管理業務のアウトソース（図書館システム）（削減効果800時間）

H.21.4 までに実施)

- 9 . 外部資金で購入する図書の購入方法の見直し (削減効果不明 H.21.4 までに実施)
- 1 0 . 図書予算の大括り化 (削減効果 900 時間 H.21.4 までに実施)
- 1 1 . 予算確認・調整業務の廃止 (削減効果 600 時間 H.21.4 までに実施)
- 1 2 . 図書予算配分方法の見直し (削減効果不明 実施時期未定)
- 1 3 . 目録登録業務 (一部) のアウトソーシング (削減効果 1,000 時間 実施時期未定)

(3) 予算及び財務会計業務

< 平成 18 年度附属図書館予算・決算 >

経常運営費

- ・ 18 年度当初予算 188,219 千円 決算額 181,066 千円であった。
- ・ 17 年度の当初予算 197,070 千円、決算 192,574 千円に比較して、当初予算、決算額とも大幅に節減した。(当初予算額 H17 予算比 8,851 千円 4.5%減、H17 決算比 12,887 千円 6.0%減) (決算額 181,066 千円)

経常事業費

- ・ 18 年度当初予算 235,579 千円 決算額 241,740 千円であった。
- ・ 17 年度の当初予算 227,279 千円、決算 232,200 千円に比較して、当初予算、決算額とも大幅な増額となった。(当初予算額 H17 予算比 8,300 千円 3.7%増、H17 決算比 9,540 千円 4.1%増) (決算額 241,740 千円)
- ・ 18 年度は、既定予算として学生用資料費の増額を継続した。(61,000 千円 63,000 千円)

18 年度臨時的経費

- ・ 大手電子ジャーナル (Elsevier, Wiley, Springer, Blackwell, Oxford) の継続利用に必要な外国雑誌購入費の補填およびライセンス料を確保した。(120,000 千円)
- ・ 10 月及び 2 月に配分された部局長裁量経費及び収入確保インセンティブ経費は、図書館施設・設備の整備、貴重資料の修理・保存、蔵書点検作業及び電子ジャーナルバックファイルの拡充のために使用した。

その他の経費

- ・ 電子的情報基盤資料整備経費の不足を補填のため、教育研究環境高度化事業経費 (間接経費) 15,000 千円を獲得
- ・ 電子図書館事業に関連して新聞記事文庫コンテンツ作成のため、科学研究費補助金 14,200 千円を獲得
- ・ 神戸大学学術成果リポジトリの推進のため、国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 (CSI 事業)」委託事業費 7,000 千円を獲得
- ・ 図書館資料展示会「東アジアのなかの日本 - 古地図と文献にみる交流の風景 - 」を、東アジア Week 2006 の共催事業として開催し、国際交流事業促進経費 700 千円を獲得
- ・ 狭隘化が著しい人間科学図書館にハンドル式集密書架を増設し収蔵スペースを拡充するため、教育研究環境高度化事業経費 (間接経費) 9,832 千円を確保
 - 18 年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

評価と課題

18年度予算については、17年度に追加が認められた学生用資料費に2,000千円を増額し、附属図書館学生用資料費は63,000千円となった。学生一人当たり一冊以上の図書を購入する予算が確保できた。

18年度も、17年度と同様に労働安全衛生の観点からの施設補修、設備改修等の整備を実施した。予算的には、全学経費（施設部営繕予算）や部局長裁量経費等によって、その枠内でできるだけの整備を行った。しかしなお、18年度に改善できなかった点が残し、今後の整備が課題である。

< 図書資産の管理 >

図書資産の点検

18年度は下記の図書館の点検を授業休業期間等を実施した。（作業館室等）総合・国際文化学、自然科学系、人文科学、医学、保健科学、海事科学の各館 約335,000冊。

なお、18年度については、不用資料の除却はなかった。

図書資料の取扱基準の制定

「国立大学法人神戸大学図書管理規程」の下に、資産管理する資料と費用処理する資料の区分を容易にするために「神戸大学における図書資料の取扱基準」を制定した。

インターネット書店

神戸大学生協の洋書校費決済代行サービスによるアマゾンの洋書購入を継続して実施している。

購入の際には7%の手数料が加算される。

法人カードによる図書資料購入

18年6月からの下記の運用で実施している。

- ・ 法人カードが利用できる資料は洋書と古書を対象とした。
- ・ 洋書についてはインターネットで購入できる洋書。洋書が購入できるインターネット書店は当面は価格面でメリットがあり、安定した実績のある、次の2店に限定した。

アマゾン（<http://www.amazon.co.jp/>）、紀伊国屋書店（BookWeb Pro）

- ・ 古書については、大学と通常取引のない小規模古書店から購入することが多く、立替払いや業者登録などの煩瑣な事務量が増加しており、これらを解消する点から使用対象とした。
- ・ 古書の購入できる古書店はVISA加盟店であればどこでも利用できることとした。

評価と課題

資産の効率的運用を図るために昨年度に引き続き、図書資産の点検を総合・国際文化学図書館、自然科学系図書館、人文科学図書館、医学分館、保健科学図書室及び海事科学分館において実施した。

教育研究活動に応じた効率的なスペース配分など全学的方針の確立を図るため、附属図書館収容力確保の方針について、18年度第2回図書館運営委員会（18年10月24日開催）で審議し、全体的な調整を図りながら、各館室において保存基準を策定し、整理して行くことになった。第1段階として、各館で重複する図書の整理、第2段階として、学内他館と重複する雑誌の調整した上での整理、に取りかかることになった。

(4) 施設整備・システム整備

< 図書館施設の現況 >

- ・ 18年度の図書館施設整備状況について、全9館室の概況をまとめた。各館室別データは、巻末基本統計の通りである。

	H17年度末	H18年度末	分析指標
施設総面積	25,839 m ²	25,839 m ²	学生あたり面積 1.42 m ² 1.46 m ²
図書収容力	3,044,942 冊	3,041,460 冊	蔵書数に対する収容可能率 88.8% 87.1 %
閲覧座席数	1,696 席	1,726 席	学生数に対する座席率 9.1% 9.7 %

【参考：Aクラスの国立大学（8学部以上の16大学）の平均値 平成17年度学術情報基盤実態調査結果報告より】

施設総面積 28,485 m² 学生あたり面積 1.72 m²
 書架収容力 2,717,342 冊 蔵書数に対して90.4%の収容力
 閲覧座席数 1,910 席 学生数に対して11.5%の座席率

- ・ 18年度は、人間科学図書館の書架増設があった。

< 各館室の施設整備 >

- ・ 各館室について、補正予算として配分された部局長裁量経費等により以下の整備を進めた。
 総合・国際文化学図書館：自動貸出装置の更新、放送設備の更新、閲覧机・椅子の更新
 社会科学系図書館：保管書棚の増設、閲覧室に網戸取付
 自然科学系図書館：監視カメラ関連装置の更新、館内放送設備の更新、照明器具の増設・更新、ブラインドの設置
 人文科学図書館：マイクロリーダープリンターの更新、利用者用ロッカーの更新
 人間科学図書館：ハンドル式集密書架の増設、閲覧机・椅子の増設、照明器具の増設・更新
 医学分館：閲覧机・椅子の増設、監視カメラ関連装置の更新、入館管理装置制御システムの更新、電動集密書架のセンサー取替
 保健科学図書室：自動貸出装置の更新、ブックディテクションシステムの更新、保管書棚の増設
 監視カメラ装置設置
 海事科学分館：ブックトラックの更新、屋外掲示板修理

< 安全点検 >

- ・ 労働安全衛生法に基づく衛生管理者を置き、毎週点検を実施した。
- ・ 18年度の労働安全衛生に関連する改善事項を記す。

総合・国際文化学図書館	書架等転倒防止及び什器固定
社会科学系図書館	外壁補修工事 エレベータ補修工事(書庫及び管理棟) 書庫天井塗装剥落部分補修工事 フロンティア館電気錠取付 什器固定
自然科学系図書館	階段滑り止め工事 蓄光式誘導標識取付 書架等転倒防止及び什器固定

人間科学図書館	什器固定
医学分館	什器固定
保健科学図書室	非常口ドアの改修 什器固定
海事科学分館	什器固定

評価と課題

図書収容の限界に達していた人間科学図書館にハンドル式集密書架を増設するための補正予算（教育研究活性化支援経費）が措置され、これにより収容力の大幅な改善が実現した。

社会科学系図書館本館（昭和8年竣工）の大閲覧室の空調機設置及び照明器具の更新について、引き続き学内予算を要求している。

18年度補正予算で措置された施設整備費補助金（約62億円）に伴う耐震改修工事により、総合・国際文化学図書館、人文科学図書館、人間科学図書館の3館が、19年度に整備予定である。そのため、の移転及び施設整備の計画の策定が喫緊の課題である。

<システム整備>

- ・ 利用者の個人情報保護のための措置として、図書館業務システム内の利用者マスタファイルにおいて、本年度より住所・電話番号など連絡先データを保持せず、学術情報基盤センター統合情報基盤計算機システムの電子メール・アドレスのみ保持することにした。
- ・ Windows98のセキュリティ・サポートが終了するため、事務用として存在したWindows98パソコンをWindowsXPに更新し、セキュリティ対策を図った。

評価と課題

利用者マスタファイルに住所・電話番号を保持せず、連絡先を学術情報基盤センター統合情報基盤計算機システム（以下、センター・システムという）の電子メール・アドレスのみに一元化することにより個人情報保護の推進とともに業務の省力化が期待されたが、利用者にセンター・システムのメール利用が定着していない時期ということもあり、利用者への連絡に混乱が生じることがあった。今後、この問題への対策を図ることが課題である。

昨年度末に導入された図書館業務システムについて、今年度は導入1年目であったが安定した運用を行うことができた。しかし未だシステムと実際の運用とが合致して機能していない面もあり、今後の課題となる。

（5）図書館界での諸活動

<国立大学図書館協会>

- ・ 総会において、引き続き監事館に選出され、協会活動の監査業務を行うとともに、理事会に出席した。

<兵庫県大学図書館協議会>

- ・ 引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
- ・ 加えて、研修事業においては研修担当館がスムーズに事業を運営できるように事務局としてサポ

- ートしている。講演会に置いて講師（附属図書館事務部長）を派遣した。
- ・ 講演会「図書館利用・活用の促進に向けて - 魅力ある図書館創りを考える」
 - ・ 研究会「大学図書館の広報について」
- ・ 県の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携強化を図った。
 - ・ 18年度の活動成果として、各加盟館におけるアウトソーシングの現状等を再認識することにより、今後の図書館の在り方を考える上でも貴重な情報共有ができた。

<その他>

- ・ 日本医学図書館協会雑誌委員会の委員を務めた（情報管理課補佐【医学分館】）。
- ・ 近畿イニシア能力開発専門委員会の委員を務めた（情報管理課補佐【海事科学分館】）。
- ・ 近畿イニシア基礎研修に講師（情報リテラシー係員）を派遣した。

評価と課題

大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動は、会員間で緊密な連携と協力を図ることによって、図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進し、加えて大学図書館職員の資質向上のためにメリットが大きい。しかしながら、各図書館の施設規模、職員数、予算等の違いもあり、講演会、研究会での情報共有テーマ等も含めて一層の考慮が必要である。

附属図書館蔵書・受入等の現況(平成18年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計		
蔵書	蔵書数 (冊)	484,934	1,247,967	464,082	273,104	309,758	268,705	135,120	56,136	251,364	3,491,170		
	和洋区分	和漢書	341,746	573,297	244,421	169,558	239,082	115,491	51,699	48,495	193,533	1,977,322	
		洋書	143,188	674,670	219,661	103,546	70,676	153,214	83,421	7,641	57,831	1,513,848	
	目録状況	目録入力対象	421,000	882,000	290,000	233,000	229,000	204,000	52,000	45,000	196,000	2,552,000	
		入力済	289,000	665,000	173,000	182,000	179,000	80,000	31,000	44,000	195,000	1,838,000	
		未入力	132,000	217,000	117,000	51,000	50,000	124,000	21,000	1,000	1,000	714,000	
	所蔵雑誌数 (タイトル数)	2,312	8,045	4,947	3,919	2,259	4,043	2,096	574	4,846	33,041		
	和洋区分	国内雑誌	1,419	2,112	2,275	2,809	1,544	1,923	697	428	3,383	16,590	
		外国雑誌	893	5,933	2,672	1,110	715	2,120	1,399	146	1,463	16,451	
	図書受入	受入図書数 (冊)	5,780	4,726	21,923	7,822	4,494	3,939	2,843	3,706	3,374	4,129	62,736
和洋区分		和漢書	5,735	3,285	12,760	4,682	3,316	3,475	2,040	2,756	2,793	3,632	44,474
		洋書	45	1,441	9,163	3,140	1,178	464	803	950	581	497	18,262
取得手段		購入(一般財源)	5,594	3,246	10,171	3,784	1,394	3,059	736	1,217	1,902	2,653	33,756
		補助金による購入	95	821	4,478	985	2,162	433	1,090	611	316	262	11,253
		一般寄贈	0	343	4,233	900	457	53	479	412	344	917	8,138
		製本編入	91	316	3,041	2,153	481	394	538	1,466	812	297	9,589
取得目的		学生用図書	5,734	1,562	3,133	2,888	1,257	1,716	186	1,672	1,045	3,184	22,377
		図書館備付	0	189	11,212	1,298	111	0	1,415	1,466	1,156	13	16,860
		研究室備付	46	2,975	7,578	3,636	3,126	2,223	1,242	568	1,173	932	23,499
除却・移譲等による減 (冊)		0	0	730	14	0	0	0	0	50	0	794	
和洋区分		和漢書	0	0	426	7	0	0	0	0	33	0	466
		洋書	0	0	304	7	0	0	0	0	17	0	328
年間増加数 (冊)		5,780	4,726	21,193	7,808	4,494	3,939	2,843	3,706	3,324	4,129	61,942	
和洋区分		和漢書	5,735	3,285	12,334	4,675	3,316	3,475	2,040	2,756	2,760	3,632	44,008
		洋書	45	1,441	8,859	3,133	1,178	464	803	950	564	497	17,934
雑誌受入		受入雑誌数 (タイトル数)	127	582	2,656	1,438	1,865	1,006	1,005	983	386	1,167	11,215
	和洋区分	国内雑誌	96	468	880	869	1,582	832	473	491	326	961	6,978
		外国雑誌	31	114	1,776	569	283	174	532	492	60	206	4,237
	取得手段	購入(一般財源)	127	179	2,236	962	356	503	398	343	123	269	5,496
		補助金による購入	0	0	27	2	0	0	0	81	0	0	110
		一般寄贈	0	403	393	474	1,509	503	607	559	263	897	5,608
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	取得目的	学生用雑誌	94	37	49	174	23	172	0	177	119	285	1,130
		図書館備付	0	483	2,303	991	1,842	482	988	693	246	837	8,865
		研究室備付	33	62	304	273	0	352	17	113	21	45	1,220
その他資料受入	受入新聞数 (タイトル数)	7	3	41	10	6	6	9	5	7	14	108	
	和洋区分	国内新聞	6	0	25	9	4	6	4	4	7	78	
		外国新聞	1	3	16	1	2	0	5	1	0	30	
	取得手段	購入	6	3	41	10	6	6	9	5	4	11	
		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	3	7	
	データベース(年間契約点数)	13	0	3	1	0	0	0	3	0	1	21	
電子ジャーナル(利用可能数)					12,196						12,196		
資料購入費	一般財源資料費	153,948,726	20,555,014	195,364,662	109,701,962	24,239,337	28,658,537	28,662,105	54,454,214	17,809,219	22,350,647	655,744,423	
	図書館セグメント	学生用図書	18,472,879	2,117,617	10,955,620	10,312,813	2,695,052	3,035,086	1,069,519	6,355,629	6,143,514	6,193,157	67,350,886
		その他資料費	132,124,615		34,219,924								166,344,539
	部局セグメント	館室備付	1,121,639	6,303,627	120,267,360	75,924,728	8,712,815	5,732,731	26,659,420	34,710,461	8,500,620	13,300,022	301,233,423
		研究室備付	2,229,593	12,133,770	29,921,758	23,464,421	12,831,470	19,890,720	933,166	13,388,124	3,165,085	2,857,468	120,815,575
	その他の財源 補助金等		18,192,000	5,653,171	35,234,635	11,228,159	14,837,136	2,513,126	2,679,661	9,191,842	705,234	2,256,908	102,491,872
		COE等(外数)			4,058,053	33,246			153,489		83,071		4,327,859
	図書購入費	15,910,840	20,387,847	126,081,500	34,469,919	28,021,450	16,477,352	10,399,572	17,550,884	11,074,850	12,716,796	293,091,010	
	和洋区分	和漢書	15,391,005	11,445,509	36,001,133	14,371,144	18,566,744	12,900,180	3,958,815	13,262,307	9,758,324	8,157,148	143,812,309
		洋書	519,835	8,942,338	90,080,367	20,098,775	9,454,706	3,577,172	6,440,757	4,288,577	1,316,526	4,559,648	149,278,701
	雑誌購入費	77,327,284	3,440,761	101,203,579	79,220,456	6,862,176	12,386,521	20,545,949	41,978,537	6,830,893	10,936,349	360,732,505	
	和洋区分	国内雑誌	1,294,868	692,965	13,859,027	7,066,055	1,628,932	3,765,911	4,807,332	4,478,053	1,689,971	2,020,669	41,303,783
		外国雑誌	76,032,416	2,747,796	87,344,552	72,154,401	5,233,244	8,620,610	15,738,617	37,500,484	5,140,922	8,915,680	319,428,722
	新聞購入費	287,796	33,342	2,591,809	458,376	287,496	132,900	396,245	240,696	156,645	480,088	5,065,393	
	電子資料費	78,413,755		609,698	5,477,566				3,747,539	148,750	445,000	88,842,308	
	その他の資料購入費	201,051	2,346,235	112,711	1,303,804	3,905,351	2,174,890		128,400	303,315	29,322	10,505,079	
	資料購入費計	172,140,726	26,208,185	230,599,297	120,930,121	39,076,473	31,171,663	31,341,766	63,646,056	18,514,453	24,607,555	758,236,295	
電子コンテンツ作成費					44,105,423						44,105,423		
製本費	908,392		6,584,367	4,541,221	1,056,599	837,743	1,143,923	3,164,480	1,732,186	694,429	20,663,340		

附属図書館サービス業務の現況(平成18年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
施設	施設面積合計(m ²)	3,396	10,707	3,287	1,198	1,457	1,164	1,612	848	2,170	25,839	
	現行用途別(m ²)	サービススペース	1,693	2,365	1,577	478	493	170	838	653	719	8,986
		書庫スペース	1,196	5,801	449	372	716	885	431	38	1,051	10,939
		事務スペース	233	524	351	154	155	80	163	35	159	1,854
		その他	274	2,017	910	194	93	29	180	122	241	4,060
	閲覧座席数	閲覧座席数	502	411	215	71	151	9	164	70	133	1,726
		上のうち、教員用	7	0	0	0	0	9	0	0	0	16
	書架収容力	棚板延長(m)	10,364	51,264	10,684	8,789	7,157	6,823	5,616	1,537	7,258	109,492
収容可能冊数		287,888	1,424,000	296,800	244,139	198,800	189,528	156,000	42,694	201,611	3,041,460	
利用者端末台数		46	45	40	14	17	3	15	12	20	212	
利用者	利用対象者総数	6,855	4,493	4,701	735	1,176	69	2,648	890	834	22,401	
	利用者別	学部学生	6,343	2,193	2,009	311	663	0	400	357	477	12,753
		大学院生	229	1,389	1,875	284	341	0	479	242	131	4,970
		教職員	151	879	809	132	161	60	1,563	291	149	4,195
		その他	7	32	8	0	6	9	206	0	20	288
		学外登録者総数	125	0	0	8	5	0	0	0	57	195
内訳: 卒業生等19、放送大学50、一般市民126												
開館入館	開館日数	年間	265	320	280	270	267	241	291	254	264	2,452
		土曜(内数)	32	44	33	32	32	0	49	32	32	286
		休日(内数)	3	36	7	3	3	0	0	0	5	57
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	738	1,062	770	529	521	0	972	495	501	5,588
		土曜開館	256	8,688	264	256	256	0	392	256	256.0	10,624
		休日開館	24	6,455	56	24	24	0	0	0	40	6,623
	入館者数	年間入館者総数	406,968	258,423	160,412	66,404	108,085	8,130	102,711	93,275	54,067	1,258,475
		時間内(含:土日)	356,663	188,140	122,718	56,605	94,666	8,130	64,763	79,532	46,035	1,017,252
		平日時間外	50,305	70,283	37,478	9,799	13,419	0	18,621	13,743	8,032	221,680
		閉館時(無人)	0	0	329	0	0	0	19,327	0	0	19,656
土曜(内数)		3,778	17,427	5,291	1,495	2,334	0	4,901	2,828	2,034	40,088	
休日(内数)		480	11,031	2,011	101	178	0	0	0	1,115	14,916	
学外者(内数)		275	726	216	189	86	58	1,238	273	518	3,579	
うち一般市民	211	282	129	32	24	15	657	197	307	1,854		
貸出	貸出総冊数	71,091	83,689	31,189	16,892	17,919	1,959	13,148	15,158	17,557	268,602	
	利用者別	学生	49,203	20,088	19,816	3,213	10,046	117	6,522	11,421	9,308	129,734
		院生	15,740	50,235	9,917	10,889	6,110	1,055	2,020	2,454	5,129	103,549
		教員	3,481	6,904	852	1,829	1,067	686	1,699	1,010	1,618	19,146
		職員	2,091	2,486	511	868	632	101	2,485	246	829	10,249
		その他	58	11	74	47	5	0	372	27	287	881
		学外者総数	518	3,965	19	46	59	0	50	0	386	5,043
うち一般市民	311	0	0	0	0	0	0	0	385	696		
参考調査	参考調査件数	4,081	4,885	1,280	1,176	548	611	1,200	1,536	3,105	18,422	
	利用者別	学生	3,590	2,883	760	904	423	305	300	1,137	2,158	12,460
		教職員	411	293	320	88	60	154	300	126	385	2,137
		学外者	80	1,709	200	184	65	152	600	273	562	3,825
複写相互利用	来館複写件数	12,549	13,743	16,596	2,692	11,187	50	14,139	11,227	1,735	83,918	
	利用者別	学内者	11,999	13,164	16,172	2,320	11,015	30	10,785	10,681	1,407	77,573
		学外者	550	579	424	372	172	20	3,354	546	328	6,345
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	88	230	183	203	231	70	526	219	114	1,864
		ILL文献複写 依頼	102	148	253	125	776	0	231	413	109	2,157
	図書配送	配送申込者数	843	902	294	295	644	0	60	103	161	3,302
		配送冊数	1,979	1,531	619	477	1,422	0	129	151	337	6,645
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	279	6,044	2,781	1,017	680	413	2,760	389	388	14,751
		ILL文献複写 依頼	628	1,336	2,097	1,197	1,611	0	2,042	1,772	165	10,848
		ILL現物貸借 受付	298	1,983	231	511	227	26	7	15	97	3,395
		ILL現物貸借 依頼	300	645	128	912	426	6	8	24	13	2,462
海外ILL	文献複写 受付	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	
	文献複写 依頼	4	35	19	0	4	0	3	6	0	71	
	現物貸借 受付	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6	
	現物貸借 依頼	5	0	1	0	1	0	0	0	0	7	

電子的情報サービスの現況(H18)

電子ジャーナルタイトル数(H18.4)

8,880

電子ジャーナルアクセス状況(2006.1～12)

フルテキストへのアクセス数

	2006.1	2006.2	2006.3	2006.4	2006.5	2006.6	2006.7	2006.8	2006.9	2006.10	2006.11	2006.12	合計
Elsevier ScienceDirect	24,184	24,385	18,833	28,253	28,978	28,951	22,497	21,610	27,441	29,447	26,664	22,691	303,934
SpringerLINK	4,096	2,226	2,289	2,839	2,673	2,892	2,426	3,267	2,213	2,067	1,994	1,934	30,916
Wiley InterScience	2,431	2,163	2,265	3,056	2,793	2,933	2,209	2,355	3,114	3,219	2,872	2,412	31,822
Blackwell HSS	1,685	1,364	1,707	5,590	3,143	3,262	3,137	2,971	3,785	3,298	3,305	2,772	36,019
JSTOR	2,106	1,238	1,519	1,524	2,699	1,958	2,504	1,778	2,994	1,531	1,523	1,393	22,767
Nature	4,073	3,036	3,066	3,740	4,183	3,872	3,425	2,743	2,730	3,996	3,929	3,427	42,220
Science Online	1,037	892	871	1,507	1,365	1,453	1,118	884	1,063	1,272	1,270	899	13,631
IEEE CSLSP-e	478	236	649	811	655	893	937	2,243	5,709	849	489	604	14,553
ACM Portal	270	83	30	232	144	142	164	259	253	294	215	322	2,408
APS	1,961	1,943	868	921	1,513	1,498	1,329	1,107	1,303	1,496	1,222	920	16,081
LWW via Ovid	783	775	759	868	917	943	811	812	875	795	903	823	10,064
ACS	2,880	3,045	2,764	4,988	5,328	5,295	3,137	2,971	3,214	2,691	2,283	2,586	41,182
Oxford UP	2,050	1,556	1,297	2,058	2,092	1,989	1,809	1,630	2,055	2,156	2,441	1,982	23,115
Cambridge UP	180	182	432	442	668	528	340	382	266	322	278	318	4,338

導入データベース数(H18.12)

全学利用	42	WWWアクセス(外部サーバ)15、学内サーバ(SwetScan)1、CD-ROMサーバ26
キャンパス限定(医学、海事)	5	医学3、海事2
スタンダード	285	各館館内利用のみ

データベースアクセス状況(2006.1～12)

各項上段がセッション数、下段(カッコ)が検索数

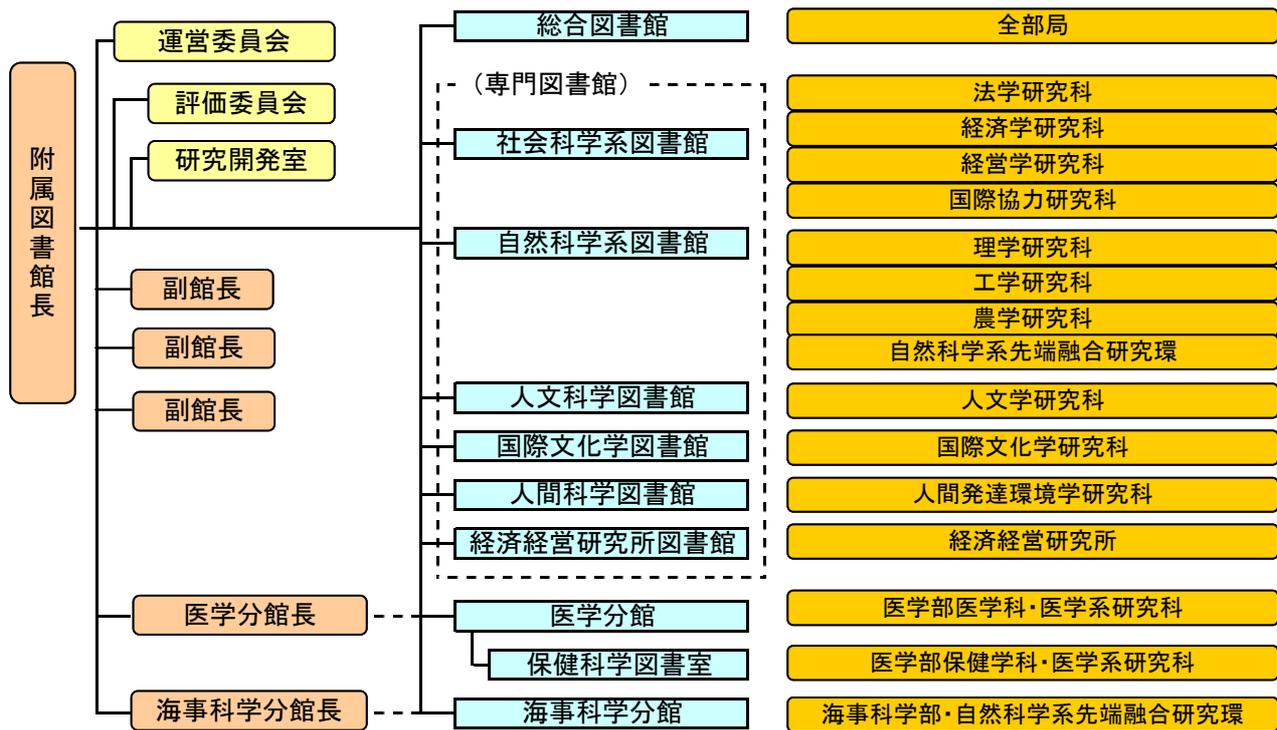
	2006.1	2006.2	2006.3	2006.4	2006.5	2006.6	2006.7	2006.8	2006.9	2006.10	2006.11	2006.12	合計
Web of Science SCIE	1,105 (5,661)	974 (3,608)	754 (3,066)	940 (4,311)	1,262 (5,776)	1,320 (6,387)	1,055 (4,102)	1,582 (4,130)	1,169 (4,316)	1,411 (5,203)	1,256 (4,429)	1,124 (3,735)	13,952 (54,724)
医学中央雑誌	1,783 (12,210)	1,565 (12,494)	6,421 (20,091)	2,164 (28,975)	2,607 (34,723)	2,437 (31,418)	2,527 (30,273)	2,211 (26,454)	1,827 (25,017)	2,021 (27,204)	2,566 (31,957)	2,002 (28,162)	30,131 (284,274)
MathSciNet	2,027 (3,359)	1,296 (2,729)	995 (2,175)	1,003 (2,540)	1,455 (2,684)	1,026 (2,244)	1,299 (2,695)	1,264 (2,342)	1,016 (2,063)	1,436 (2,725)	1,310 (2,021)	1,608 (2,325)	15,735 (29,902)
SciFinder scholar	256 (944)	197 (738)	176 (658)	294 (1,050)	301 (1,083)	379 (1,400)	374 (1,325)	244 (757)	394 (1,389)	435 (1,536)	405 (1,392)	268 (920)	3,723 (12,248)
Readers Guide to Periodical Literature	43 (128)	23 (50)	15 (31)	47 (100)	51 (71)	71 (234)	62 (110)	26 (64)	20 (36)	50 (164)	54 (188)	72 (224)	534 (1,400)
Business Periodicals Index	66 (274)	36 (260)	36 (136)	50 (205)	58 (181)	94 (314)	130 (2,560)	40 (466)	24 (135)	64 (249)	38 (148)	53 (186)	689 (5,114)
EconLit	389 (4,062)	284 (2,629)	250 (2,628)	323 (1,288)	389 (1,690)	488 (2,359)	444 (4,314)	250 (1,726)	268 (1,617)	416 (2,079)	305 (1,602)	265 (1,226)	4,071 (27,220)
Index to Legal Periodicals	42 (69)	27 (40)	15 (31)	36 (64)	34 (65)	72 (301)	78 (170)	26 (72)	12 (13)	44 (176)	39 (146)	55 (188)	480 (1,335)
JCR	144 (287)	209 (616)	292 (889)	295 (774)	284 (1,119)	406 (1,547)	327 (802)	372 (1,177)	330 (844)	393 (1,099)	422 (822)	383 (581)	3,857 (10,557)
JapanKnowledge	181	189	160	188	458	352	679	316	401	443	256	300	3,923
CiNii	(4,232)	(3,772)	(3,613)	(5,243)	(9,425)	(9,427)	(7,709)	(5,169)	(5,433)	(10,628)	(9,543)	(8,760)	(11,617)
SwetScan	276	173	152	607	760	515	355	226	257	381	327	358	4,387
日経テレコン21	7月より導入						18,302	51,822	68,816	39,930	59,470	23,691	262,031
MAGAZINEPLUS	8月より導入						232	241	433	424	298	1,628	
理科年表プレミアム	9月より導入						41	32	66	36	175		
文字鏡	73	9	29	15	10	35	6	21	18	4	5	5	230

聞蔵(朝日新聞)、官報は統計データ未公開

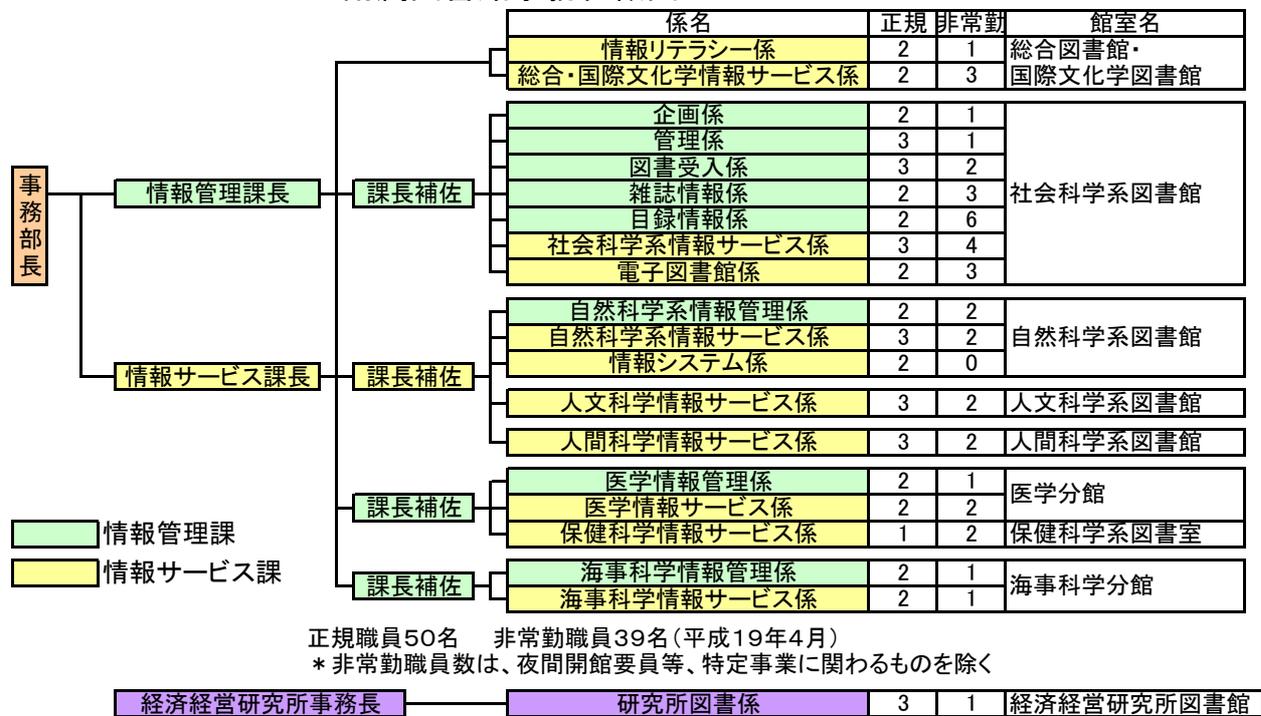
図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計(H18.4～H19.3)

	H18.4	H18.5	H18.6	H18.7	H18.8	H18.9	H18.10	H18.11	H18.12	H19.1	H19.2	H19.3	合計
図書館トップページ	65,671	69,096	69,970	71,450	48,987	49,442	74,652	67,901	63,080	67,131	51,844	41,766	740,990
(うち学内)	48,680	50,131	52,642	51,198	30,571	31,670	54,129	47,922	43,245	44,283	34,773	26,134	515,378
(うち学外)	16,991	18,965	17,328	20,252	18,416	17,772	20,523	19,979	19,835	22,848	17,071	15,632	225,612
震災文庫トップページ	3,441	4,075	4,186	3,810	3,801	3,836	6,459	6,562	5,498	7,911	3,744	3,749	57,072
(うち学内)	186	223	283	203	200	134	260	315	236	168	149	142	2,499
(うち学外)	3,255	3,852	3,903	3,607	3,601	3,702	6,199	6,247	5,262	7,743	3,595	3,607	54,573
新聞記事文庫トップページ	5,849	7,328	7,304	8,742	8,441	9,079	9,781	10,269	8,633	10,540	7,065	6,025	99,056
(うち学内)	115	215	195	188	114	88	173	184	115	139	132	127	1,785
(うち学外)	5,734	7,113	7,109	8,554	8,327	8,991	9,608	10,085	8,518	10,401	6,933	5,898	97,271
OPAC延べ検索回数	128,411	153,165	166,986	160,010	111,265	116,365	193,483	189,764	183,363	150,018	104,078	85,040	1,741,948
(うち学内)	108,367	129,601	137,376	130,433	73,671	69,386	129,582	114,367	104,879	111,575	78,712	54,372	1,242,321
(うち学外)	20,044	23,564	29,610	29,577	37,594	46,979	63,901	75,397	78,484	38,443	25,366	30,668	499,627

<附属図書館組織図>



<附属図書館事務組織図>



平成18年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回： 5月31日（水） 15:00～17:30（於：附属図書館プレゼンホール）

報告事項

- (1) 各図書館・室報告
- (2) 平成17年度年次報告について
- (3) 機関リポジトリ推進委員会（仮称）について
- (4) 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業委託事業への応募について
- (5) 平成18年度講演会（シンポジウム）の開催について
- (6) その他
 - 1) 鶴甲地区改修計画について
 - 2) 教育研究活性化支援経費
 - 3) 平成18年度図書館各種ガイダンスについて
 - 4) 法人カードによる書籍購入について

協議事項

- (1) 平成17年度決算について
- (2) 教育研究基盤資料の整備方針について
- (3) 2007年外国雑誌購読調査について
- (4) 平成18年度電子図書館事業について
- (5) 平成18年度目録遡及入力事業について
- (6) 平成18年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (7) e-study 資料の整備について
- (8) その他

第2回： 10月24日（火） 13:30～17:00（於：附属図書館プレゼンホール）

報告事項

- (1) 各図書館・室報告
- (2) 附属図書館評価委員会報告について
- (3) 機関リポジトリの進捗状況について
- (4) 電子図書館システムのリプレースについて
- (5) 平成18年度展示会の開催について
- (6) 業務改善プロジェクト報告について
- (7) 蔵書点検の進捗状況について
- (8) 平成18年度図書館各種ガイダンス（後期）について
- (9) その他

協議事項

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 平成18年度補正予算について
- (3) 平成19年度年次計画及び18年度年次計画進捗状況について
- (4) 附属図書館収容力確保の方針（案）について
- (5) 総合図書館の学生用図書を選書評価について
- (6) その他

第3回： 1月31日（水） 15:00～17:10（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

- (1) 附属図書館関係規則の改定について
- (2) 教育研究基盤資料の整備について
- (3) 教育対象の附属図書館利用者アンケートの実施について
- (4) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告
- (2) 平成19年度年次計画及び18年度年次計画進捗状況について
- (3) 施設整備費補助金（H18補正予算）による改修計画について
- (4) 機関リポジトリの進捗状況について
- (5) 平成18年度展示会の開催について

第4回： 3月22日（木） 15:30～17:00（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

- (1) 平成19年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 平成19年度附属図書館学生用資料について
- (3) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告
- (2) 図書館関係規則の改定について
- (3) 附属図書館評価委員会について
- (4) 平成18年度第2次補正予算について
- (5) 平成19年度事業計画について
- (6) 平成19年度改修計画について
- (7) 高額教育研究基盤図書のおすすめ依頼について
- (8) 国際文化学図書館の英語名称の変更について
- (9) 古医学書の寄贈受入について
- (10) その他

<附属図書館評価委員会>

第1回： 7月4日（火） 10:00～（於：附属図書館プレゼンホール）

議題

- (1) 年度計画等スケジュール（暫定案）及び平成17年度実績報告書について
- (2) 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価について
- (3) 平成17年度年次報告書の作成・配布について
- (4) その他

第2回： 10月23日（月） 15:00～（於：附属図書館プレゼンホール）

議題

- (1) 附属図書館年次計画平成18年度進捗状況及び19年度計画について
- (2) 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価について
- (3) その他

第3回： 3月22日（木） 14:30～（於：附属図書館プレゼンホール）

議題

- (1) 利用者アンケート集計報告について
- (2) 附属図書館年次計画平成18年度達成度報告について
- (3) 平成18年度年次報告書の作成について
- (4) その他

<附属図書館研究開発室会議>

第1回： 5月24日（水） 15:00～（於：附属図書館プレゼンテーションホール）

報告事項

- (1) 経過の報告について
- (2) 平成17年度電子図書館システム事業報告について

協議事項

- (1) 平成18年度電子図書館システム事業計画について

その他

- (1) 神戸大学機関リポジトリシステムの紹介

<全学図書系係長会議>

第1回： 6月16日（金） 15:00～（於：附属図書館プレゼンホール）

議題

- (1) 教育研究基盤資料整備方針
- (2) 外国雑誌購読調査
- (3) リポジトリ事業
- (4) シンポジウム
- (5) 総合図書館資料選定委員会
- (6) 蔵書評価
- (7) 展示会
- (8) サービス検討
- (9) e-study 関係
- (10) 係事業計画の提出
- (11) 業務改善プロジェクトの進捗状況
- (12) 学内外諸会議関係
- (13) 各補佐・係長報告
 - 1) 資料収容力調査の関係
 - 2) 電子図書館リプレース

第2回： 12月19日（火） 15:00～（於：附属図書館プレゼンホール）

議題

- (1) 所要額見込み及び財源について
- (2) H19 電子ジャーナル及びデータベース
- (3) 高額図書
- (4) スケジュール
- (5) 附属図書館年次計画進捗関係 H19 年次計画
- (6) 年次計画ヒアリング H19 重点事項
- (7) 全体年次計画進捗状況 H19 年次計画
- (8) 認証評価関係
- (9) 施設整備関係
- (10) プロジェクト報告書
- (11) 附属図書館実施計画
- (12) 図書分類の標準化に向けての調査
- (13) 資産点検の実施について
- (14) 職員の65歳までの雇用確保の方策について
- (15) 永年勤続者表彰の一部廃止について
- (16) 機関リポジトリの推進について
- (17) 電子図書館システムリプレースについて
- (18) 重複雑誌の調整について
- (19) 教員アンケートの実施について
- (20) 第3回附属図書館運営委員会の開催について
- (21) 附属図書館展示会報告
- (22) 学内外諸会議関係
- (23) 各補佐・係長報告

第3回： 3月26日（月） 15:00～（於：附属図書館プレゼンホール）

議題

- (1) 平成18年度第2次補正予算について
- (2) 平成19年度事業計画について
- (3) 平成19年度附属図書館当初予算配分について
- (4) 平成19年度附属図書館学生用資料について
- (5) 年次計画について
- (6) 利用者アンケート調査報告について
- (7) 平成19年度改修計画について
- (8) 資産点検結果について
- (9) 高額研究基盤図書の推薦依頼について
- (10) 諸会議報告（学外諸会議、学内諸会議、館内諸会議等）
- (11) 各補佐・係長報告

(12) <附属図書館運営委員会委員名簿>

	職名	氏名	任期等
図書館長	国文・教授	須藤 健一	H17.4.1～H19.3.31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	済・教授	足立 正樹	H17.4.1～H19.3.31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	農・教授	青木 健次	H17.4.1～H19.3.31
副館長 (附属図書館評価委員長)	発・教授	三上 和夫	H17.4.1～H19.3.31
医学分館長	医・教授	堀田 博	H17.6.1～H19.5.31
海事科学分館長	海・教授	丸尾 健二	H18.4.1～H20.3.31
文学部・文化学研究科	教授	毛利 晶	H17.4.1～H19.3.31
国際文化学部	教授 教授	定延 利之 王 柯	H18.4.1～H18.9.30 H18.10.1～H20.3.31
発達科学部	教授	柳田 泰義	H18.4.1～H20.3.31
法学研究科	教授	山本 弘	H18.4.1～H19.3.31
経済学研究科	教授	滝川 好夫	H18.4.1～H20.3.31
経営学研究科	教授	加登 豊	H18.4.1～H19.3.31
理学部	教授	郡司 幸夫	H18.4.1～H20.3.31
医学部 (保健学科)	教授	傳 秋光	H18.4.1～H20.3.31
工学部	教授	三好 旦六	H17.4.1～H19.3.31
農学部	教授	向井 文雄	H18.4.1～H20.3.31
自然科学研究科	教授	蛭名 邦禎	H17.4.1～H19.3.31
国際協力研究科	教授	内田 康雄	H18.4.1～H20.3.31
経済経営研究所	教授	小島 健司	H18.4.1～H19.3.31
大学教育推進機構	教授	米谷 淳	H17.4.1～H19.3.31
学術情報基盤センター	教授	鳩野 逸生	H18.4.1～H20.3.31
附属図書館	事務部長	故選 義浩	官職指定による

<附属図書館評価委員会委員名簿>

職名 (委員は全て官職指定)	氏名	備考
図書館長	須藤 健一	
副館長	足立 正樹	
副館長	青木 健次	
副館長	三上 和夫	委員長
医学分館長	堀田 博	
海事科学分館長	丸尾 健二	
事務部長	故選 義浩	
情報管理課長	奥田 正義	
情報サービス課長	山田 周治	

<附属図書館研究開発室室員名簿>

職名		氏名	備考
総括	図書館長	須藤 健一	室長
震災関係資料 電子化部会	副館長(発)	三上 和夫	部会長
	国文・教授	大月 一弘	～H20.3.31
	都市安・教授	沖村 孝	～H20.3.31
	文・教授	奥村 弘	～H20.3.31
経済関係資料 電子化部会	副館長(済)	足立 正樹	部会長
	研究所・教授	富田 昌宏	～H20.3.31
	経済・教授	重富 公生	～H20.3.31
	海事・教授	石田 憲治	～H20.3.31
学内研究成果 電子化部会	副館長(農)	青木 健次	部会長
	農・助教授	金子 治平	～H20.3.31
	経営・助手	末次 晃	～H20.3.31
	都市安・教授 (医学系研究科)	鎌江 伊三夫	～H20.3.31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	～H20.3.31

平成18年度 附属図書館 予算・決算

単位:千円

事 項	平成18年度 予算配分額	平成18年度 決算額	比較増減	摘 要
経常運営費				
備品・消耗品費	11,219	11,971	△ 752	備品費 4,414 事務用品 1,062 図書館用品 2,498 用紙類 343 電算消耗品 1,615 蛍光灯類 458 雑用品 1,581
事務用図書費	800	764	36	
印刷製本費	1,000	1,292	△ 292	利用案内 471 封筒 691 その他 130
光熱水料	25,000	24,031	969	電気代 16,770 ガス代 2,492 水道代 4,034 重油代 735
通信運搬費	7,000	6,602	398	切手代 1,509 郵便料 2,996 電話代 354 学内資料搬送 1,597 地下鉄カード 146
借料及び損料	8,000	6,798	1,202	複写機 6,749 タクシー代 49
雑役務等諸経費	35,000	34,684	316	営繕費 3,959 機器修理 394 廃棄物収集運搬 2,411 特高設備 1,648 清掃委託 8,045 警備委託 4,899 EV保守 5,780 消防設備点検 938 文献複写 1,568 その他保守・業務費 1,469 謝金 448 諸会費 203 労働安全衛生対策 2,200 雑費 722
非常勤職員給与等	98,000	93,938	4,062	給与 81,754 事業主負担分 9,424 賞与引当金 2,760
電子計算機維持経費	1,000	120	880	情報基盤センター利用負担金
職員旅費	1,200	866	334	会議・研修会・講習会旅費
小 計	188,219	181,066	7,153	
経常事業費				
時間外開館経費	21,500	19,932	1,568	
外部委託		9,165		社会系、医学分館分
開館要員(学生)賃金		10,767		その他の館室分
電子図書館事業	20,000	20,040	△ 40	
外部委託経費(コンテンツ作成)	10,000	8,939	1,061	
外部委託経費(遡及外注)	6,500	6,869	△ 369	
アルバイト経費	2,500	3,610	△ 1,110	
消耗品費	1,000	622	378	
その他事業費	300	339	△ 39	
展示会経費	300	339	△ 39	
図書館資料費	110,500	116,888	△ 6,388	
学生用資料費	63,000	67,351	△ 4,351	
震災文庫資料費	500	511	△ 11	
外国雑誌センター館経費	35,000	33,709	1,291	
電子的情報基盤資料整備経費	12,000	15,317	△ 3,317	SciFinderライセンス料3,192千円(利用者負担金)を含む。
製本費	14,000	15,262	△ 1,262	
小 計	166,300	172,461	△ 6,161	
運営費+事業費	354,519	353,527	992	
電算機借料				
図書館業務システム	13,869	13,869	0	0 学術情報基盤センターで一括処理
電子図書館システム	55,410	55,410	0	
小 計	69,279	69,279	0	
経常経費 計	423,798	422,806	992	

事 項	平成18年度 予算配分額	平成18年度 決算額	比較増減	摘 要
臨時的経費				
図書館経費	120,000	120,000	0	大手電子ジャーナル(Elsevier,Wiley,Springer,Blackwell)の継続利用に必要な外国雑誌購入費の補填及びライセンス料
部局長裁量経費	14,060	28,965	△ 14,905	自動貸出装置更新 4,437 マイクロリローダープリンター更新 1,890 ブックディテクションシステム更新 2,468 貴重資料の修復・保存 1,693 マイクロ資料の劣化対策 1,890 雑誌製本 3,493 蔵書点検 1,319 書架・キャレル・椅子の増設・更新 1,576 監視カメラ及び記録装置(自然・医学分館) 1,930 医学分館入館ゲート制御システム 1,000 電動集密書架センサー更新 525 Windows98マシン更新 660 社系図書館エレベータ補修工事 1,576 社系図書館書庫A棟天井塗装工事 1,155 その他 3,353
収入確保インセンティブ経費	10,754	4,583	6,171	支出はILL文献複写料等支払料金
営繕関係費	2,868	2,868	0	社系図書館外壁補修工事 2,500 総合・国際文化学図書館床補修他工事 368
職員厚生経費	114	114	0	
赴任旅費	104	104	0	
小 計	147,900	156,634	△ 8,734	
その他の臨時的経費				
教員等館内複写料金	4,724	0	4,724	
SciFinder 利用者負担金	3,192	0	3,192	電子的情報基盤資料として支出
小 計	7,916	0	7,916	
外部資金				
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)	14,200	14,200	0	0 戦前期新聞経済記事文庫データベース
国立情報学研究所CSI委託事業費	7,000	7,000	0	0 機関リポジトリ構築及び機関リポジトリに係る研究開発
教育研究活性化支援経費(間接経費)	9,832	9,832	0	0 人間科学図書館ハンドル式集密書架
教育研究活性化支援経費(間接経費)	15,000	15,000	0	0 電子ジャーナル・データベース維持に充当
山口藍子奨学寄付金	465	465	0	0 山口文庫資料購入
国際交流事業促進基金	700	700	0	0 展示会補助
小 計	47,197	47,197	0	
臨時的経費 計	203,013	203,831	△ 818	

図書館セグメント計 626,811 626,637 174

平成18年度 図書資料費実績

2007.6.5

(附属図書館セグメント)

単位:千円

館室名	学生用図書			震災文庫 資料費	電子の情報 資料*	電子ジャー ナル コン ソーシアム維 持費	外国雑誌 センター	計**
	予算額	決算額	比較増減					
総合図書館	18,552	18,473	79		30,317	120,000		168,790
社会科学系図書館	9,401	10,956	△ 1,555	511			33,709	45,176
自然科学系図書館	10,313	10,313	0					10,313
人文科学図書館	2,065	2,695	△ 630					2,695
国際文化学図書館	2,121	2,118	3					2,118
人間科学図書館	3,035	3,035	0					3,035
経済経営研究所図書館	1,000	1,069	△ 69					1,069
医学分館	6,056	6,356	△ 300					6,356
保健科学図書室	5,079	6,143	△ 1,064					6,143
海事科学分館	5,378	6,193	△ 815					6,193
小計	63,000	67,351	△ 4,351	511	30,317	120,000	33,709	251,888

注* 間接経費 受益者負担金を含む

** これ以外に、電子コンテンツ作成費 44105千円(科研費補助金を含む)

(部局セグメント)

館室名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	1,122	2,230	3,352
社会科学系図書館	120,267	29,922	150,189
自然科学系図書館	75,925	23,464	99,389
人文科学図書館	8,713	12,831	21,544
国際文化学図書館	6,304	12,134	18,438
人間科学図書館	5,733	19,891	25,624
経済経営研究所図書館	26,659	933	27,592
医学分館	34,710	13,388	48,098
保健科学図書室	8,501	3,165	11,666
海事科学分館	13,300	2,857	16,157
計	301,234	120,815	422,049

(部局セグメント)

館室名	補助金による購入			
	科研費	委任経理	受託研究	計
総合図書館	0	0	0	0
社会科学系図書館	33,575	1,567	93	35,235
自然科学系図書館	9,355	550	1,323	11,228
人文科学図書館	14,512	234	91	14,837
国際文化学図書館	5,546	61	47	5,654
人間科学図書館	2,511	1	0	2,512
経済経営研究所図書館	1,538	1,086	55	2,679
医学分館	1,483	6,932	777	9,192
保健科学図書室	474	171	60	705
海事科学分館	1,859	398	0	2,257
計	70,853	11,000	2,446	84,299

(合計)

合計	(外数) COE等
172,142	0
230,600	4,058
120,930	33
39,076	0
26,210	0
31,171	0
31,340	153
63,646	0
18,514	83
24,607	0
758,236	4,327

平成18年度附属図書館活動日誌

<4月>

- 6 (木) 入学式
第1回経済経営研究所図書委員会
- 7 (金) 灘高職員 利用者端末等ネットワーク見学 <於：自然科学系図書館>
- 12 (水) 留学生ウエルカムセレモニー (図書館ガイダンスを含む)
- 13 (木) ~ 19 (水) OPAC ガイダンス <於：総合図書館>
- 14 (金) 兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会合同会議
<於：図書館プレゼンホール
出席：事務部長・両課長他>
- 17 (月) ~ 21 (金) 会計検査院実地検査
- 19 (水) 第1回国際文化学図書館図書委員会
- 21 (金) 近畿地区国立大学等図書系人事担当課長・事務長懇談会
<於：京都大学 出席：管理課長>
近畿地区国立大学図書館協会総会
<於：京都大学 出席：館長・部長・管理課長>
- 28 (金) 近畿地区医学図書館協議会
<於：天理よろず相談所病院 出席：情報管理課長補佐 (医学) >

<5月>

- 10 (水) 第1回人文科学図書館図書委員会
- 10 (水) ~ 17 (水) 情報の探し方ガイダンス (基本的なデータベースの使い方)
<於：自然科学系図書館>
- 15 (月) 新衛生管理者等実務研修会 <於：瀧川会館 受講：管理課長>
- 16 (火) 兵庫県大学図書館協議会企画委員会
<於：姫路獨協大学 出席：事務部長・両課長他>
NII 17年度 CSI 委託事業報告交流会
<於：学術総合センタービル 出席：電子図書館係長>
- 18 (木) 第1回海事科学分館図書委員会
- 22 (月) 第1回医学分館図書委員会
- 23 (火) 監査法人による期末監査
- 24 (水) 第1回社会科学系図書館図書委員会
第1回附属図書館研究開発室会議 <於：図書館プレゼンホール>
第1回人間科学図書館図書委員会
- 25 (木) 国立大学図書館協会会計監査 <於：東京大学 出席：両課長>
外国雑誌センター館会議
<於：東京大学 出席：管理課長・雑誌情報係長>
- 25 (木) ~ 26 (金) 日本医学図書館協会総会
<於：名古屋ウィル愛知 出席：管理課長補佐 (医学) >
- 26 (金) 国立大学図書館協会理事会 <於：東京大学 出席：両課長>
- 30 (火) 第1回自然科学系図書館図書委員会
第1回近畿イニシア能力開発専門委員会
<於：関学梅田キャンパス 出席：管理課長補佐 (海事) >

31(水) 第1回附属図書館運営委員会
<於:図書館プレゼンホール>

<6月>

2(金) 第1回近畿イニシア運営委員会
<於:図書館プレゼンホール 出席:部長・管理課長>

5(月) SciFinder ガイダンス <於:自然科学系図書館>

5(月)~9(金) トライやるウィーク 神戸市立上野中学校(6名)
<於:社会科学系図書館他>

6(火) 産業医視察 <於:自然科学系図書館>

7(水) 第2回海事科学分館図書委員会

8(木) パソコン管理運用担当者研修 <於:神大会館 受講:1名>

16(金) 第1回全学図書系係長会議 <於:図書館プレゼンホール>

19(月)~22(木) 情報の探し方ガイダンス(個々のデータベースの使い方)
<於:自然科学系図書館>

26(月)~30(金) 情報の探し方ガイダンス(社会科学編)
<於:社会科学系図書館>

28(水) 第2回保健科学図書室図書委員会
国立大学図書館協会マネジメントセミナー
<於:学術総合センター 出席:館長・サービス課長>
国立大学図書館協会総会レセプション
<於:如水会館 出席:館長・サービス課長>

29(木) 国立大学図書館協会総会
<於:一橋記念講堂
出席:館長・サービス課長・管理課長補佐(海事)>

30(金) 神戸大学講演会 <於:図書館プレゼンホール 出席:部長・管理課長>

<7月>

3(月)~14(金) 大学図書館職員長期研修 <於:筑波大学 受講:1名>

4(火) 第1回附属図書館評価委員会 <於:図書館プレゼンホール>

11(火) 第2回近畿イニシア能力開発専門委員会
<於:関学梅田キャンパス 出席:管理課長補佐(海事)>

12(水) 第3回海事科学分館図書委員会
平成18年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業説明会
<於:国立情報学研究所 出席:電子図書館係長・管理係主任>

15(土)~30(日) 前期試験期特別開館
(社会科学系図書館・自然科学系図書館)

21(金)~27(木) 前期試験期特別開館(海事科学分館)

22(土)~30(日) 前期試験期特別開館(総合・国際文化学図書館・人文科学図書館・
人間科学図書館)

28(金) 神戸大学機関リポジトリ(Kernel)開設記念シンポジウム
「機関リポジトリとこれからの学術情報流通」<於:滝川会館>

31(月)~8月11(金) 筑波大学より図書館情報学実習生受入 <於:社会科学系図書館ほか>

< 8月 >

- 2 (水) 兵庫県大学図書館協議会総会
< 於：姫路獨協大学 出席：館長・部長・両課長他 >
- 16 (水) 電子図書館システム仕様策定委員会 < 於：自然科学系図書館 >
- 21 (月) ~ 25 (金) 平成 18 年図書館情報学実習生受入
- 22 (火) 電源設備点検 (停電) のため休館
(人間科学を除く六甲台キャンパス各館)
- 23 (水) 電子ジャーナル地区説明会
< 於：京都大学 出席：管理課長・雑誌情報係長 >
- 29 (火) ~ 1 (金) 衛生管理者受験準備講習会
< 於：瀧川会館 受講：1 名 >

< 9月 >

- 6 (水) ~ 8 (金) 目録システム地域講習会
< 於：社会科学系図書館 受講：5 名 >
アプリケーションソフト研修 (エクセル・マクロ VBA)
< 於：神大会館会議室 A 受講：1 名 >
- 8 (金) アプリケーションソフト研修 (エクセル応用)
< 於：神大会館会議室 A 受講：2 名 >
- 11 (月) アプリケーションソフト研修 (ワード)
< 於：神大会館会議室 A 受講：1 名 >
第 3 回近畿イニシア能力開発専門委員会
< 於：関西大学 出席：管理課長補佐 (海事) >
- 12 (火) アプリケーションソフト研修 (Powerpoint)
< 於：神大会館会議室 A 受講：1 名 >
- 13 (水) アプリケーションソフト研修 (エクセル応用)
< 於：神大会館会議室 A 受講：4 名 >
- 21 (木) 第 2 回近畿イニシア運営委員会 < 於：京都大学 出席：管理課長 >
日本医学図書館協会雑誌委員会
< 於：東京日本科学未来館 出席：管理課長補佐 (医学) >
- 21 (木) ~ 22 (金) 接遇実務研修 < 人事院近畿事務局 受講：1 名 >
- 29 (金) 日本医学図書館協会雑誌コンソーシアム説明会
< 於：大阪大学生命科学図書館 出席：管理課長補佐 (医学) >

< 10月 >

- 10 (火) 京都大学図書館機構第 1 回講演会
< 於：京都大学図書館 出席：4 名 >
- 11 (水) ~ 13 (金) 学術情報リテラシー教育担当者研修
< 於：大阪大学 受講：1 名 >
- 13 (金) 兵庫県大学図書館協議会講演会
「図書館の利用・活用の促進に向けて」
< 於：武庫川女子大学 出席：部長・サービス課長・企画係長他 >
- 17 (火) ~ 20 (金) 大学図書館職員講習会 < 於：京都大学 受講：2 名 >
- 20 (金) 監査法人による期中監査
- 23 (月) 第 2 回附属図書館評価委員会 < 於：図書館プレゼンホール >

- 24 (火) 第2回附属図書館運営委員会 <於：図書館プレゼンホール>
 25 (水) 第4回近畿イニシア能力開発専門委員会
 <於：関学梅田キャンパス 出席：管理課長補佐(海事)他>
 26 (木) 国立大学図書館協会理事会
 <於：東北大学附属図書館 出席：館長・管理課長>
 27 (金) 電子図書館システム導入説明会 <於：自然科学系図書館>
- <11月>**
- 2 (木) 職員向けリポジトリ説明会 <於：自然科学系図書館>
 学術情報基盤センターシンポジウム
 <於：六甲ホール 出席：部長・サービス課長>
 6 (月)～10 (金) トライやるウィーク 神戸市立筒井台中学校 (1名)
 <於：社会科学系図書館他>
 7 (火)～10 (金) 西洋社会科学古典資料講習会 <於：一橋大学 受講：1名>
 10 (金) 第4回海事科学分館図書委員会
 10 (金)～17 (金) 神戸大学附属図書館展示会「東アジアのなかの日本」
 <於：図書館プレゼンホール>
 14 (火) 第5回近畿イニシア能力開発専門委員会
 <於：関西大学 出席：管理課長補佐(海事)>
 15 (水) 国立情報学研究所教育研修事業国際シンポジウム
 <於：大阪大学 出席：管理課長補佐(社会)他>
 16 (木) 兵庫県大学図書館協議会研究会
 「大学図書館の広報について」
 <於：兵庫県立大学神戸キャンパス 出席：サービス課長他>
 16 (木)～17 (金) CSI事業千葉大ワークショップ
 <於：千葉大学 出席：管理課長補佐(海事)他>
 17 (金) 年次計画等に関するヒアリング <於：本部大会議室 出席：館長・部課長
 ・管理課長補佐(社会)・サービス課長補佐・企画係長>
 21 (火)～22 (水) 大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修(初任者研修)
 <於：関西大学 出席：管理課長補佐(海事)他>
 NAIST 電子図書館学講座
 <於：奈良先端技術大学院大学 受講：1名>
 22 (水) 第2回国際文化化学図書館図書委員会
 28 (火)～29 (水) 図書館ガイダンス「情報の探し方」 <於：総合図書館>
 HTML研修会 <於：総合図書館 出席：サービス課長他>
 29 (水) 医学図書館協会近畿地区会例会
 <於：田附興風会医学研究所北野病院 出席：管理課長補佐(医学)>

<12月>

- 1 (金) 国立大学協会近畿地区支部専門分野別研修
 「情報公開・個人情報保護関係」
 <於：阪大コンベンションセンター 出席：1名>
 国立大学図書館協会近畿地区協会 事務連絡会
 <於：京都大学図書館 出席：部長・両課長>
 5 (火)～7 (木) 図書館ガイダンス「情報の探し方」 <於：人間科学図書館>

- 6 (水) 第3回保健科学図書室図書委員会
 11 (月) ~ 15 (金) 会計検査院実地検査
 13 (水) ~ 15 (金) 図書館等職員著作権実務講習会
 <於：国立オリンピック記念青少年総合センター 受講：1名>
 18 (月) 国際シンポジウム <於：都市センターホテル 出席：部長>
 19 (火) 第2回全学図書系係長会議 <於：図書館プレゼンホール>

< 1月 >

- 5 (金) ~ 6 (土) 全国図書館長懇談会 <於：京都大学 出席：館長>
 10 (水) 第2回人文科学図書館図書委員会
 図書館講習会 <於：大阪大学生命科学図書館 受講：1名>
 17 (水) ~ 19 (金) 日本古典籍講習会 <於：国立国会図書館本館 受講：1名>
 18 (木) 第6回近畿イニシア能力開発専門委員会
 <於：関西学院大学 出席：管理課長補佐(海事)>
 22 (月) 第2回自然科学系図書館図書委員会
 29 (月) 第2回医学分館図書委員会
 30 (火) ~ 15 (木) 後期試験期特別開館(社会科学系図書館・自然科学系図書館)
 31 (水) 平成18年度第3回附属図書館運営委員会
 <於：図書館プレゼンホール>

< 2月 >

- 2 (金) ~ 8 (木) 後期試験期特別開館(総合・国際文化学図書館・人文科学図書館・
 人間科学図書館)
 7 (水) 平成18年度目録システム/ILLシステム講習会担当者会議
 <於：国立情報学研究所 出席：1名>
 8 (木) ~ 9 (金) NII共催DRF第2回ワークショップ
 <於：早稲田大学 出席：電子図書館係長>
 10 (土) ~ 18 (日) 後期試験期特別開館(海事科学分館)
 20 (火) 電子図書館仕様策定委員会 <於：自然系図書館>
 21 (水) 第3回人文科学図書館図書委員会
 23 (金) 平成18年度兵庫県図書館協会第2回研究集会
 <於：三田市立図書館 出席：部長>
 27 (火) 第1回人間科学図書館図書委員会
 28 (水) 近畿イニシア運営委員会
 <於：大阪市大 出席：部長・管理課長>
 平成19年度近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験説明会
 <於：関西学院大学 出席：1名>

< 3月 >

- 1 (木) 関西地区大学図書館員ワークショップ
 <於：京都大学 参加：2名>
 2 (金) 京都大学図書館機構4th Inter-Library forum
 <於：京都大学 出席：1名>
 5 (月) ~ 13 (火) 海外研修 <於：国立シンガポール大学 参加：1名>
 7 (水) 第2回日本医学図書館協会雑誌委員会

- 12 (月) <於：JPLA 事務局 出席：管理課長補佐（医学）>
後期入試のため全館休館（医学分館を除く）
- 22 (木) 平成 18 年度第 3 回附属図書館評価委員会 <於：図書館プレゼンホール>
平成 18 年度第 4 回附属図書館運営委員会 <於：図書館プレゼンホール>
- 23 (金) 学位記授与式 <於：ワールド記念ホール>
- 26 (月) 第 3 回全学図書系係長会議 <於：図書館プレゼンホール>
- 29 (木) 神戸大学職員表彰式
<於：図書館プレゼンホール 出席：部長・管理係長他>